

農家經濟調査簿記入の仕方

SAMPY

農林省統計調査局

日記帳

一、現金日記帳

農家の日々の現金の收入、支出を月日順に記入する帳簿であつて、用紙形式は月日、摘要、收入支出及び残金の各欄より成つてゐる。

『收入』欄は更に『所得的收入』『財産的收入』の二欄に分たれて居り、一切の收入は此の二種の收入に分類して記入する。

『所得的收入』とは、收入のうち儲け（即ち所得）になる收入を云ふのであつて、農業及び兼業生産物の販賣收入を始め、財産利用收入（小作料、配當利子、牛馬賃貸等）勞銀及び俸給收入、家具家財、古新聞等の賣却收入を云ふ。之に對し『財産的收入』とは現金收入はあつてもそれだけ他の財産（例へば土地とか貯金とかの如し）が減つて何等儲け（即ち所得）にならない收入、例へば貯金や預金等の引出し收入、貸金や未收入金の返済受收入並に負債に依る收入土地、建物等の固定資産及び株券、債券等の賣却收入の如きを云ふ。

『支出』欄は更に『所得的支出』『家計支出』『財産的支出』の三欄に分たれて居り、一切の支出はこの三種の支出に分類して記入する。

『所得的支出』とは『家計支出』と共に、支出のうち損になる支出を云ふのではあるが、『家計支出』が農家々族が生活するために要する純消費的支出を云ふに對し、農家が所得を獲るために生産的支出を云ふのである。例へば肥料、飼料、種苗、小農具等の購入支出及び勞銀、小作料等の支拂支出の如きである。

租税公課は云ふまでもなく、直接、間接の差こそあれ所得に賦課せられるものであるから、地租及び附加税、家屋税を始め市町村民税、組合費、部落協議費等に至るまでの所得を擧げるための支出として即ち所得的支出として取扱ふ。

建物の新築、改築及び大修繕のために要せる支出は、それは實際には之に用ひられる材木、板、瓦、釘等の購入支出及び大工の勞銀の支拂支出として個々に支拂はれたものであつても凡て『財産的支出』として取扱ふ。之に對し建物の小修繕又は維持のため経常的支出は『所得的支出』である。住居用の建物の維持修繕のための支出と云へども『家計支出』とせずに『所得的支出』として記入する。蓋し此の簿記に於ては建物は家計用建物たると、家計、農業兼用の建物たるとを問はずすべて所得經濟の財産として一應取扱ふ方法をとつてゐる關係からである。

『家計支出』とは家計に要せる一切の現金支出、例へば家具家財、衣服、反物、酒、煙草、魚、鹽、砂糖等の購入支出、醫藥料、交際費、寄附金等を云ふ。

『財産的支出』とは支出であつても支出現金額だけの財産（例へば土地とか貯金とか貸金とかの

如し)が殖えて何等損にならない支出、例へば土地、建物、大動物及び大機具等の固定資産並に株券、債券等の『準現金』の購入支出、貯金や預金や貸付けのための現金支出、負債支拂のための現金支出の如きを云ふ。

薪と魚との交換の如き物々交換は、現金取引でないが便宜やつた物を賣つて、その代金を支出して貰つたものを購買したものと看做して、販賣收入、購買支出の二現金取引に分解して記入する。家畜を交換した場合にも同様に取扱ふ。例へば時價 200 圓の育成牛をやつて 犢牛と 追金 90 圓とを貰つた場合には育成牛 200 圓の販賣收入、新に購入した犢牛の價格は 110 圓として(200 圓 - 90 圓 = 110 圓) 購買支出に記入する。但し現物小作料、現物勞銀現物公課等として支拂つた現物は現物日記帳に記入し、現金日記帳には全然記入しない。

記入例を示せば次の如くである。

| 月日 | 摘要 | 数量 | 收入 | | | 支出 | | | 残金 |
|------|------------------------------|----|----|-----------|-----------|----------|-----------|----------|-------|
| | | | 科目 | 所得的 收入 | 財產的 收入 | 費用 科目 | 所得的 支出 | 家計 支出 | |
| 5.10 | 薪3束をやつて魚と交換す (薪1束50銭と見積る) | 3束 | | 円 150 | 円 | | 円 | 円 | 円 |
| | | | | | | | | 150 | |
| 5.15 | 育成牛をやつて犢牛と交換す 追金 90圓受入 | 1頭 | | | 20000 | | | | |
| | (肥育牛を 200 個と見積る) | 1頭 | | | | | | | 11000 |

掛賣買及び振替賣買は賣買の行はれた時に直接的に此の帳簿に記入せずして掛賣買に關しては、代金の受入、支拂のあつたときには初めて掛、振替賣買賈帳から明細的に轉記する。

| 月日 | 摘要 | 数量 | 收入 | | 支出 | | | 残金 |
|------|------------------------------|-----------|----|--------------|----|-----------|---------|----|
| | | | 科目 | 所得的財產的 收入 | 費目 | 所得的支 出 | 家計 出 | |
| 5.31 | 本月分大商店 買掛金 18 圓 10 錢支拂 | 茶 1斤 | | 貰 內 | | 貲 內 | 1.20 | |
| | | 菜子 2斤 | | | | | 60 | |
| | | 硫安 20貫 | | | | 7.00 | | |
| | | 飼 飼 料 20貫 | | | | 8.50 | | |
| | | 進物下駄 1足 | | | | | 1.00 | |
| | | 封筒及 便箋 | | | | | | 30 |

内金取引は現金賣買と同様に受取り又は支拂つた内金だけ直接的に此の帳簿に記入する。残金は現金の收入、支出があつたとき記入する。

毎月末には、収入、(所得的収入、財産的収入)、支出(所得的支出、家計支出、財産的支出)の各欄の月計を算出して記入する。

年度末の實取引の最終の記入を了へた後、覺帳の年度末締切によりてその『精算』欄に於て算出せる未収、未拂、残金額を此の帳簿に轉記する。未收入殘金については一旦收入して之を相手方に貸金支出したと看做して『所得的收入』欄と『財產的支出』とに兩欄記入する。未拂殘金については相手方から借金收入して支拂つたと看做して『財產的收入』欄と『支出』（購入物の何であるかにより『所得的支出』又は『家計支出』）欄との兩欄に記入する。此の場合之等の擬制的な取引の記入を實取引の記入と區別するために朱筆を以つて書く。

振替賣買については、年度末に於て矢張り覚帳の『精算』欄から、振替賣りについては、販賣收入金を組合から現金で收入してその收入金を組合に貯金したと看做して此の帳簿の『所得的收入』欄と『財産的支出欄』とに兩欄記入し、振替買ひについては同様に『財産的收入』欄と『支出』(購入物の何であるかにより『所得的支出』又は『家計支出』)欄との兩欄に記入する。此の場合にも之等の記入は朱筆を以つて書く。

現金日記帳(記入例)

| 月日 | 摘要 | 数量 | 收入 | | 支出 | | 残金 |
|------|-------------------------|---------------|-----|-----------|-----------|-----|------------|
| | | | 科目 | 所得的 收入 | 財產的 收入 | 費目 | |
| 3. 1 | 前年度ヨリ繰越 | | | 円 | 円 | | 円 45.50 |
| 夕 | 生魚(アヂ) 購入 | 300匁 | | | | 副 | 90 44.60 |
| 3. 3 | 鶏卵40箇販賣 100匁56錢 | 650匁 | 畜 | 299 | | | |
| 夕 | 茶購入 | 100匁 | | | | 嗜 | 130 |
| 夕 | 撫寸1箱購入 | 1箱 | | | | 家・光 | 15 |
| 夕 | 牛飼料大豆粕2枚購入 (1枚4圓50錢) | 真 分 14.720 | | | | 飼 | 9.00 37.14 |
| 3. 7 | 信用組合當座貯金引出 | | 組・貯 | | 40.00 | | |
| 夕 | 砂糖購入 1斤27錢 | 斤 2.1 | | | | 調 | 57 |
| 夕 | 國防獻金 | | | | | 負 | 150 |
| 夕 | 葉書10枚切手5枚購入 | | | | | 交 | 40 74.67 |
| 夕 | 教科書3年用 5冊 | | | | | 教 | 50 |
| 夕 | 長男小使錢 | | | | | 家・雜 | 2.00 65.77 |
| 夕 | 洗濯盤購入 | | | | | 家・具 | 6.40 65.77 |
| 夕 | 硫安(1匁10貫)代支拂 | 10貫 | | | | 肥 | 3.94 |
| 夕 | 電燈代(3月分) | | | | | 家・光 | 1.50 |
| 夕 | 新聞代(3月分) | | | | | 修 | 1.20 |
| 夕 | 田租(第2期分) | | | | | 稅 | 4 |
| 夕 | 粳玄米精白貨(4斗) | | | | | 米 | 15 |

| | | | | | | | | |
|------|-------------|--|------|------|---|------|------|------|
| タ | 簡易保険料 (3月分) | | | | 保 | | | |
| タ | 主人散髪代 | | | | 衛 | | 40 | |
| | 小計 | | | 229 | | 1774 | 1697 | 150 |
| 3.30 | 妻伊勢詣費用 | | | | 修 | | 500 | 4966 |
| | 月計 | | 7144 | 4000 | | 5637 | 4738 | 350 |

費科目分類表

(一) 財産の收支分類表

| 種目 | 略稱 | 内 容 |
|--------|-----|--|
| 土地 | 土 | 土地(田・畠・山林・原野等)ノ購入支出並=購入=附隨セル登記料シノ他ノ購入雜費支出 及同賣却收入 |
| 建物 | 建物 | 建物新築及改築及大修繕支出 及賣却收入 |
| 大植物 | 大植 | 大植物ノ購入支出 及同賣却收入 |
| 大動物 | 大動 | 大動物(牛馬羊豚等)ノ購入支出 及同賣却收入 |
| 大機具 | 大機 | 大機具(新調價 10 倍以上)ノ購入支出 及同賣却收入 |
| 組合貯金 | 組・貯 | 組合貯金ノ貯金支出 及同引出收入 |
| 郵便貯金 | 郵・貯 | 郵便貯金ノ貯金支出 及同引出收入 |
| 銀行預金 | 銀・預 | 銀行預金ノ預金支出 及同引出收入 |
| 貸付金 | 貸 | 貸付金ノ貸付支出 及同返済受入收入 |
| 未収入金 | 未收 | 賣掛貸シ支出 及賣掛金受入收入 |
| 頼母子譲 | 譲 | 頼母子譲ノ拂込支出 及同落札收入 |
| 生命保険 | 保 | 生命保險ノ拂込支出 及同拂戻受收入 |
| 組合出資金 | 出資 | 組合出資金ノ拂込支出 及讓渡收入 |
| 國債、貯蓄報 | 國債 | 國債貯蓄券報國債券購入支出 及同賣却收入 |
| 公社債及株券 | 株 | 株券ノ拂込並購入支出 公社債券購入支出 及同賣却收入 |
| 借入金 | 借 | 借金返済支出 及借金收入 |
| 未拂金 | 未拂 | 買掛金ノ支拂支出 及賣掛借リ收入 |

(二) 所得の收入科目分類表

| 科 目 | 略 稱 | 内 容 |
|--------|--------|---|
| 農 業 | 玄米 | 穀米販賣收入及家計仕向 |
| | 糯米 | 水稻、糯米販賣收入及家計仕向 |
| | 生産獎勵金 | 水稻米ノ生產獎勵金 |
| | 其他 | 屑米、粄、稻藻等ノ販賣收入及家計仕向 |
| | 陸稻 | 陸稻、玄米販賣收入及家計仕向 |
| | 生産獎勵金 | 陸稻米ノ生產獎勵金 |
| | 其他 | 陸稻屑米及藁等販賣收入及家計仕向 |
| | 大麥 | 大麥、ビール用大麥販賣收入及家計仕向 |
| | 裸麥 | 裸麥販賣收入及家計仕向 |
| | 小麥 | 小麥販賣收入及家計仕向 |
| 果 樹 | 其 他 | 屑麥及麥稈等販賣收入及家計仕向 |
| | 雜穀 | 粟、稷、大豆、小豆、玉蜀黍、黍、蕎麥、其他雜穀 |
| | 甘藷 | 甘藷販賣收入及家計仕向 |
| | 馬鈴薯 | 馬鈴薯販賣收入及家計仕向 |
| | 蔬 | 茄子、トマト、胡瓜、越瓜、西瓜、マスクメロン、甜瓜、南瓜、冬瓜、苦瓜、隼人瓜、瓠、菜豆、豌豆、蠶豆、豇豆、鵝豆、刀豆、扁豆、蕃椒、大根、カララ、人參、牛蒡、黑芥、蓮根、慈姑、薯蕷、葱頭、蘋果、分葱、薤、韭、蒜、土當歸、石刀柏、山葵、ミツバ、白菜、小松菜、鹽菜、水菜、京菜、芥菜、廣島菜、恭菜、甘藍、子持甘藍、花椰菜、セルリー、芹、波穗草、シニシキ、卷丹、蕗、萬能、朝鮮薑、アメリカ防風、甘露兒、若荷、チコリ、ベセリー、ツルナ、紫蘇等販賣收入及家計仕向 |
| | 實 | 宿柑、キーブルオレンジ、夏橙、白向夏、ナルトオレンジ、グレープフルート、柚、レモン、其他柑橘類、翠果、梨、柿、桃、梅、葡萄、枇杷、無花果、櫻桃、栗、杏、李等販賣收入及家計仕向 |
| | 工藝作物 | 大麻、苧麻、黃麻、菜種、蘭、七島蘭、葉煙草、除蟲菊、サフラン、茶葉、楮、三種、檉、胡麻、蒟蒻芋、棉、忙柳、糸瓜、薄荷、黃蜀葵、瞿麥、黃連、ホップ、センキウ、蓖麻、朝鮮人參等ノ販賣收入及家計仕向 |
| | 桑 | 桑、桑條及桑皮等販賣收入及家計仕向 |
| | 其他耕種 | 菊、スギートビー、カーネーション、チューリップ、グラジオラス、水仙、カレンジュラ、其他花卉類、盆栽類、庭園樹、街路樹、桑苗、果樹苗、山林苗木、甘藷苗、蔬菜其他苗類等其他耕種雜收入及家計仕向 |
| | 蔓 | 春蠶、夏秋蠶上繭(三眠蠶及格落ヲ含ム)販賣收入及家計仕向 |
| 蠶 | 生產獎勵金 | 蠶產生產獎勵金 |
| | 玉屑其他 | 玉蘭、二等蘭、屑蘭、蘭綿、蠶渣等販賣收入及家計仕向 |

二、現物日記帳

現物日記帳は、生産（及蓄收得）現物のうち農家経済内部に家計消費に仕向けた現物と小作料及び現物勞銀等として農家経済外に支拂つた現物とを夫々家計仕向現物、外部支拂現物と稱して月日順に記録する帳簿である。

『家計仕向現物』欄は更に『数量』『價額』の二欄に分れて居り、『價額』欄には仕向現物の評價額を記入する。

『外部支拂現物』欄も『数量』『價額』の二欄に分れて居り、同様に『價額』欄には支拂現物の評價額を記入する。評價格は市價を基準として評價する。

種穀と種穀との交換、種穀と玄米との交換の如き通稱物々交換と稱せらるゝものに伴ふ支拂現物は『外部支拂現物』欄に記入してはならない。之等の交換取引は支拂現物を賣つてその賣上代金で以つて受取つたものを買つたと看做して二現金取引に分解して現金日記帳に直接記入する方法を探るからである。家畜の交換も、同様にやつた家畜を賣つて、貰つた家畜を買つたものとして取扱ひ、直接現金日記帳に二現金取引に分解して記入するから此の現物日記帳には記入してはならない。

(記入例)

| 月 日 | 摘要 | 種 目 | | 家計仕向現物 | | 外部支拂現物 | |
|-----|----------|------------|------------|--------|-------|--------|-----|
| | | 收 入 種 目 | 支 出 種 目 | 數 量 | 價 額 | 數 量 | 價 額 |
| 25 | 粳玄米飯米 | 米 | 米 | 0.40 | 16.68 | | |
| 27 | 鶏 (自家消費) | 畜 | 副 | 500只 | 2.60 | | |
| 31 | 菠蘿草 () | 蔬 | 々 | 5貫 | 2.50 | | |
| 々 | 里芋 () | 々 | 々 | 4貫 | 2.00 | | |
| 々 | 葱 () | 々 | 々 | 2貫 | 90 | | |
| 々 | 鶏卵 () | 々 | 々 | 480只 | 2.21 | | |
| 々 | 薪 () | 林 | 家・光 | 15束 | 6.00 | | |
| 月 | 計 | | | | 32.89 | | |

三、労働日記帳

(1) 労働日記帳

労働日記帳は家族及雇人の毎日の労働を記入する帳簿である。

労働と云つてもすべての労働を記入するのではなく、炊事、家族員の衣服の裁縫子守り、病人の看護等のやうな家事労働は一切記入しない。多少とも所得を擧げる所謂生産的労働（本帳簿では所得的労働といふ）を『水稻労働』『麥作労働』『其他耕種労働』『養蠶労働』『農耕労働』『被傭及其他労働』に分類して記入するのである。但し果樹又は蔬菜及其他の部門が經營中心となつてゐる場合は果樹名其他を部門欄に記入する。

| | |
|---------|------------------------------|
| 水 稲 | 水稻作の労働一切 |
| 麥 作 | 麥作の労働一切 |
| 其他 耕 種 | 陸稻、雜穀、果樹、蔬菜、桑樹工藝作物等米麥以外の耕種労働 |
| 養 蠶 | 摘桑より蠶兒飼育等養蠶に關する労働一切 |
| 養 畜 | 養畜労働一切 |
| 農 雜 | 其他の農業労働 |
| 被 傭 其 他 | 被傭及兼業等の如き農外収益労働 |
| 公 共 | 無報酬にて公共の爲に費す労働 |

共同作業に當方から出役した場合も先方から來て働いて貰つた場合も此の労働日記帳には記入せずして、別の『共同作業及手傳労働日記帳』に記入する仕組となつてゐる。

所得的労働の外に、最近色々な集會につひやす時間や各種の團體の役員として奉仕する労働——但し無報酬の——が相當に多くなつたので、其等の公共労働も参考のために調査してみるために、『公共労働』なる一欄が附加されてゐる。

労働は一日単位で記帳する。一日の労働といふのは、その地方に於てその季節々々に労働者をやとつた場合特別な『いたわり』又は『もてなし』なしに働かせることが出来る労働量を云ふ。従つて日の長い夏期と日の短い冬期とに於てはその労働時間は自然に異なるけれども一日の労働として「1.0」と記入する。半日の労働は「0.5」と、四半天分の労働は「0.25」と記入し、夜業等で一日分以上働いた場合にはその程度に應じて「1.1」とか「1.2」とか記入する。

毎日記入するのが原則であるが、日々繰り返さる牛、馬、鶏等の飼養管理や搾乳等につひやす毎日の零細な労働は、毎日記入することは煩雑であるから、その旬の労働量を旬末日の『行』にまとめて記入する便宜法をとる。(記入例の經營主の6月10日の養畜労働0.8は此の例である)

『備考』欄は『記事』『現物受拂控』の二欄に分たれて居り、『記事』帳には川南の田の田植とか北山の畑の麥刈とか、蠶の上簇とかいふやうにその日の主要作業を記入する。また雇人へ賄を支給せる場合にその見積額を記入しておく。『現物受拂控』欄は更に『現物名』『数量』『受入又は拂出先

名』の三欄に分たれて居り、その日に生産又は費消せる夫々の現物について、その名稱、數量、受入、拂出先名の三項を明記しておくのである。

各旬末に於て旬計を算出する。

かくして算出せられた労働日數は各人の労働力の差異を參照せざる労働(能力不換算)日數である。

この外に男はすべて男一人前の労働単位に、女はすべて女一人前の労働単位に換算してみる必要がある。

この換算手續として『能力換算率』の行に『家族臺帳』の『労働能力』欄から各人の労働能力を轉記し、能力不換算日數に夫々各人の能力換算率を乗ずるのである。然るときに男女各別の労働単位に換算せる労働日數が算出せらる。但し公共労働は能力換算を行ふ必要はない。

勞 動 日

| 月 6 天 候 | 人 別 部 門 別 | 經 营 主 | | | | | | | | 臨 時 領 | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|---|---|------------------|---|-----|---|-----|---|-----|----------|-----------------------|--------|---|---|---|
| | | 水 稲 | | | | 麥 作 | | | | 其 他 耕 種 | | 養 蟻 | | 發 畜 | | 農 雜 | | 被 其 傳 及 他 | 公 共 | 計 | 男 | 女 |
| | | 部 | 日 | 部 | 日 | 部 | 日 | 部 | 日 | 部 | 日 | 部 | 日 | 部 | 日 | 部 | 日 | | | | | |
| 1 | 晴 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1.0 | | | | |
| 2 | 夕 | | | | | 0.7 | 0.4 | | | | | | | | | | | 1.1 | | | | |
| 3 | 曇 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1.2 | | | | |
| 4 | 雨 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1.1 | | | | |
| 5 | 晴 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1.1 | | | | |
| 6 | 夕 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1.0 | | | | |
| 7 | 曇 | | | | | 0.2 | 0.5 | | | | | | | | | | | 0.2 0.9 | | | | |
| 8 | 夕 | | 1.0 | | | | | | | | | | | | | | | 1.0 | | | | |
| 9 | 晴 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1.0 | | | | |
| 10 | 曇 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1.8 | | | | |
| 計 能 力 不 換 算 日 數 | | 1.0 | 1.0 | 0.9 | 7.3 | 0.8 | | | | | | | | | | | 0.2 11.2 | 6.0 | | | | |
| 能力換算率 | | 1.0 | | | | | | | | 1.0 | | | | | | | | 6.0 | | | | |
| 能 力 換 算 日 數 | | 1.0 | 1.0 | 0.9 | 7.3 | 0.8 | | | | | | | | | | | 11.2 | | | | | |

土地開墾、建物新築又は改築及大農具等修繕の爲めの臨時農業労働は臨時労働として備考欄へ作業名並に人別に日數を記入する。

品評會又は選獎等で農具其他現物の被贈を受けた場合は、その日附と數量及び評價額を『摘錄』欄に記入する。

註 工場、礦山等に通勤する場合は『部門』欄に工場出勤又は礦山出勤と記入し、日數は1.0日と計上し、『記事』欄には晝勤、夜勤、又は「二の替り」等交替別を記入し摘錄に勤務時間を何月一何月迄(前6時一後4時)の如く記入すると共に從事せる労務名を記載すること。但し労務名は變更なき場合は度々記入の必要はない。

記入例を示せば次表の如し。

記 帳 (記入例)

| 牛又ハ馬 | 月 | 備 | | 考 | | |
|------|----|--|--------|--------------------|--------|---------------|
| | | 記 | 事 | (ソノ日從事セシ作業名等ヲ記入スル) | | |
| 部 | 門 | 現物名 | 受 | 拂 | 控 | (ソノ日ノ作業ニ關聯セル) |
| 門 | 數 | 現物名 | 數量 | 受入又ハ拂出 | 現物名 | 現物受拂控 |
| | 日 | 桑葉 | 15.900 | | 自家桑園ヨリ | |
| | 1 | 蠶箔洗滌(主、長男各0.5日) 摘桑飼育 西山ナツ履入 | 50錢 | | | |
| | 2 | 紫雲英刈、摘桑飼育 大宮フサ履入 | 50錢 | | | |
| | 3 | 摘桑飼育 | | | | |
| | 4 | | | | | |
| | 5 | 上簇 大宮フサ西山ナツ履入 | 1圓 | | | |
| | 6 | 上簇 | | | | |
| | 7 | 桑園除草株直シ、上簇及片附、農事實行組合集會 | | | | |
| | 8 | 田起、施肥(西道ノ田) | | | | |
| | 9 | 稈麥刈(甫田ノ田、愛宕畑)、蒼拔キ | | | | |
| | 10 | 收穫及毛羽取リ、養畜(10日分) (豪牛主0.8日、豪豚長男0.1日、豪鶏妻0.4日) | | | | |
| | | 計 不換算 日 數 | | | | |
| | | 換算率 | | | | |
| | | 換算 日 數 | | | | |

(2) 共同作業及手傳勞動日記帳

共同作業及手傳労働が行はれた場合、その作業労働を記入する帳簿であつて、出役又は手傳をなした場合も受役又は手傳を受けた場合も共に記入する。雇人を共同作業に出役せしめた場合も同様出役欄に記入し雇人の事實は備考欄に記入する。

この帳簿は日記帳であるけれども、共同作業は一定の農繁季節に短期間に行はれるものが普通であるから、共同作業の行はれる期間だけ毎日記帳すればよい。

『摘要』欄にその日行はれた共同作業名を記入する。そして當方より出役した場合には『共同作業出役』欄に出役者とその出役日數とを記入し、當方の仕事を共同作業でやつて貰つた場合には『共同作業受役』欄に部門名と勞働見積量とを記入する。

共同作業出役期間中は例へ其作業が恰度當方の仕事をしても當方より出役してゐる家族及雇人の

共 同 作 業 及 手

| 月日 | 摘要 (作業名等) | 共同作業出役 | | | | | | 共同作業 | | | |
|----------|--------------|--------|--|--|-----|--|------------------|------|--|-----|--|
| | | 男 | | | 女 | | 牛 又 八 馬 | 男 | | 女 | |
| | | 經營主 | | | 妻 | | | 稻作 | | 稻作 | |
| 6.21 | 田植 | 1.0 | | | 1.0 | | 1.0 | | | | |
| 6.22 | 夕 | 1.0 | | | 1.0 | | | | | | |
| 23 | 夕 | 1.0 | | | 1.0 | | | | | | |
| 24 | 夕 | 1.0 | | | 1.0 | | 1.0 | 4.0 | | 6.0 | |
| 30 | 夕 | | | | | | | | | | |
| 計能力不換算日數 | | 7.5 | | | 7.0 | | 3.0 | | | | |
| 能力換算率 | | 1.0 | | | 1.0 | | | | | | |
| 能力換算日數 | | 7.5 | | | 7.0 | | 3.0 | 4.0 | | 6.0 | |

労働は労働日記帳に記入せず總てこの共同作業日記帳に受役として記入するのであるが（従つて出役せるものは受役にも入つてゐる）調査の必要上當方の家族及雇人が當方の仕事をなしたる際は「備考」欄に人別に見積労働を記入する。

共同作業の外に報酬を目的にしない青年團學校生徒の勤労奉仕や親戚等の手傳を受けた場合は「手傳受」欄に手傳を受けた作業の属する部門名と日數を記入し、之と反対に他家の手傳をした場合は手傳に出た者の名と手傳つた日數を記入する。

手傳に出た場合に御禮として現金、現物等を貰つたり手傳に來た人に謝禮として金、品、食事等を預へた場合は『備考』欄に記入すること。

其他『備考』欄には共同作業に關聯せる参考事項を記入しておく、旬末に旬末計を算出し更に能力換算日数を算出する手續は勞働日記帳の場合と同じである。

記入例を示せば次の如くである。

傳 積 勵 目 記 帳 (記入例)

| 受役 | | 手傳 | | 手傳受 | | 備考 |
|------|-----|----|---|-----|----|------------------|
| 牛又八馬 | | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 稻作 | 經營主 | 妻 | | 部門 | 日數 | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 1.0 | | | | | | 稻作 5.0 女子青年團勤勞奉仕 |
| 2.0 | | | | | | 8.0 |
| 2.0 | | | | | | 8.0 |

(3) 動力機械使用日記帳

動力機械使用日記帳は動力機械の使用を記入する帳簿である。こゝに動力機械といふのは、動力機械及びこれによつて運轉せられる作業機をいふ。これらの機械を使用せる都度、その機械が自家の所有機械であるか、共有機械であるか、賃借りせる機械であるかを明かにし、他方に於ては使用せる作業名並に自家經營に使用せるものであるか、他家經營に賃貸し使用せるものであるか、または共同使用せるものであるかを明かにして、その使用時間を記入するのである。

「作業時間」は其作業の開始から後片付迄の間に動員せられた人總ての作業時間を男女別に記入する。此の場合に「請負せ」の場合も請負人及それに付はれて作業に従事した者も男女別に其時間を記入する。

作業場所欄には其作業が行はれた場所を記入する。即ち圃場で揚水又は脱穀を行つた場合は圃場と記入し、自分の納屋等へ搬入して行つた場合は「屋内」と記入し稲摺等を請負人の営業所へ運搬して行つた場合は「請負人宅」等と記入し場所を明かならしめるものである。

作業引續き二日以上行はれる場合は毎日の行程を記入し同一作業毎に集計區分して記入すること。

動 力 機 械 使

| 月 日 | 部 門 (作物名) | 作業名 | 原 動 機 | | 作業機名 | 機械所有借入、共有ノ別 |
|-------|--------------|-----|-----------------|-----|------------------|-------------|
| | | | 名 称 | 馬 力 | | |
| 6.20 | 小 麦 | 脱 穀 | ヤンマー 石油發動機 | 3.5 | 野田式脱穀機 | 所 有 |
| | | | | | | |
| 8.10 | 水 稲 | 揚 水 | クボタ マーチカルポンプ | 3.5 | ヤンマー マーチカルポンプ | 共 有 |
| | | | | | | |
| 12.18 | 水 稲 | 脱 穀 | クボタ 石油發動機 | 3.5 | 野田式脱穀機 | 所 有 |
| | | | | | | |
| 12.25 | 水 稲 | 稲 摺 | クボタ 石油發動機 | 3.0 | スピーエー稲摺機 | |
| | | | | | | |

記入例を示せば次の如くである。

記入の要領は次の通りである。

「部門」欄には水稻、小麥又は家畜名等を記入する。「作業名」欄には、耕耘、揚水、又は稲摺等と、作業の名稱を記入する。「原動機」欄の名稱馬力には例へばヤンマー石油發動機、3.5馬力の如く記入する。

「作業機名」欄には、野田式脱穀機等と記入する。

「機械の所有、借入、共有の別」欄には其機械が、自分の所有であるか。賃借であるか共有の農具であるか、其機械の占有形態を記入する。

「個人、共同、請負せ別」欄には其作業が自分個人の作業か、部落農事實行組合の計畫に基く共同作業であるか、若くは、請負人に、請負せて行ひたるものであるか、を區別して、(個人)、(共同)、(請負せ)等と略記するのである。

「機械使用時間」欄は、機械の運轉した時間を記入する。此の場合請負せる時は運轉時間の記入は困難であるが請負人に聽取して可及的正確に記入する。

「作業量」欄は耕耘脱穀等の場合は作業反別を何反歩と記入し、稲摺の場合は玄米量により何石と記入する。

用 日 記 帳 (記入例)

| 個人、共同 請負せノ別 | 機械 運轉時間 | 作業時間 | | 作業場所 | 備 考 |
|----------------|------------|-------|----|------|-----------------------|
| | | 作業量 | 時間 | | |
| 個 人 | 時間 | 反 | 時間 | 時間 | 圃 场 |
| 個 人 | 3 | 3 | 4 | 8 | 男 1 女 2 |
| 共 同 | 2 | 15 | 3 | 2 | 男 1 女 1 |
| 個 人 | 4 | 4 | 9 | 13 | 男 2 女 3 |
| 請 負 せ | 3 | 玄米 15 | 7 | 14 | 請 負 人 宅 男 2 女 3 |

掛・振替賣

| 現物受 | | 掛賣買 (内金賣買ヲ含ム) | |
|------|----------------------|------------------|---------------|
| 月日 | 摘要 | 品名 | 数量 |
| | | | 受入(掛買) 拂出(掛賣) |
| 3 4 | 農事實行組合ヨリ配給 3.94 | 硫安 | 1 叻 (10貫) |
| 夕 夕 | 1 叻當 3.22 円 8.05 | 臨時配給肥料五號甲 | 1 叻半 (25貫) |
| 夕 夕 | 10.11 | 茶種油粕 | 1 叻 (16貫) |
| 3 15 | 鳥菊へ賣掛 100匁當 46錢 4.46 | 鷄卵 | 970匁 (60斤) |
| 4 5 | 本山商店ヨリ掛買 2.20 | 酒 | 1 升 |

| | | | | |
|------|-------------------------|----|-----------|--|
| 7 4 | 産業組合へ出荷 | | | |
| 7 10 | 夕 夕 | 小麥 | 6 俵 | |
| 8 1 | 郡是製糸ヨリ掛買 10瓦當 2.40 4.80 | 蠶種 | 20瓦 | |
| 8 15 | 本山商店 夕 夕 4.45 | 醬油 | 1 檀 (18立) | |

| | | | | |
|-------|-----------------------------|-----------|-------------|--|
| 12 11 | 管理米出荷 | | | |
| 夕 夕 | 夕 | | | |
| 夕 夕 | 夕 (小作收得米) | | | |
| 12 22 | 管理米出荷 | | | |
| 夕 夕 | 農事實行組合ヨリ配給 1 叻當 3.95 錢 7.90 | 臨時配給肥料五號甲 | 1 叻 (20貫) | |
| 2 25 | 鳥菊へ掛賣 100匁 46錢 6.62 | 鷄卵 | 1.440 (60斤) | |

買覺帳 (記入例)

| 拂 | | 精 | | 算 | |
|------|----|--------|------|-------|--|
| 振替賣買 | | 現金 | | | |
| 月日 | 摘要 | 收 入 | 支 出 | | |
| 3 20 | 支拂 | 円 3.94 | | | |
| 夕 夕 | 夕 | | 8.05 | | |
| 夕 夕 | 夕 | | | 10.11 | |
| 3 19 | 受入 | 4.46 | | | |
| 8 30 | 夕 | | | 2.20 | |

| | | | | | |
|---------------|-----|---------------|----------------------|--------|--------|
| | 10俵 | 7 8 | 販賣代金ヲ受ケ當座貯金へ振替 | 117 00 | 117 00 |
| 7 10 12 10 | | 7 10 14 28 | 假渡金ヲ受ク 販賣代金ノ精算ヲ受ク | 60 00 | |
| 9 27 | | | 初秋蠶繭代ヨリ差引 | | 4.80 |
| 9 30 | | | 支拂 | | 5.45 |

| | | | | | |
|----------|------|-------|----------------|--------|--------|
| 粳玄米 (2等) | 13俵 | 12 26 | 販賣代金ヲ受ケ當座貯金へ振替 | 234 00 | 234 00 |
| 粳玄米 (3等) | 34 俵 | 夕 夕 | 夕 夕 | 605 00 | 605 00 |
| 夕 (夕) | 5 俵 | 夕 夕 | 夕 夕 | 89 00 | 89 00 |
| 糯玄米 (3等) | 2 俵 | 1 11 | 夕 夕 | 39 10 | 39 10 |
| | | 夕 夕 | 年度未未拂 | 7 90 | 7 90 |
| | | 夕 夕 | 年度未未收 | 6 62 | 6 62 |

(2) 貸 借 整 理 帳

貸しや借りは一應は他の取引と共に日記帳に記入せられるのであるが、個人の借主、貸主別に分類記入し、その貸借状態が何時に於ても一目瞭然となつてゐることが農家にとって極めて重要である。此の目的のために、特に設けられたるものが貸借整理帳である。貸借整理帳は『貸シノ部』『借りノ部』とより成り、次掲の如き用紙形式を採用してゐる。

〔貸シノ部〕

| 口 座 | 月 日 | 摘 要 | 貸 (財産的支出) | シ 返 済 受 (財産的收入) | 残 額 |
|-----|-----|-----|--------------|-----------------------|-----|
| | | | 円 | 円 | 円 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

〔借りノ部〕

| 口 座 | 月 日 | 摘 要 | 借 (財産的收入) | リ 返 済 (財産的支出) | 残 額 |
|-----|-----|-----|--------------|---------------------|-----|
| | | | 円 | 円 | 円 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

『貸シノ部』の口座欄には、財産臺帳の『準現金』から借主の氏名又は商號を、『借りノ部』の口座欄には、財產臺帳の『負債』から貸主の氏名又は商號を拾ひ出して、その一人々々を口座とし、口座は數行乃至十數行宛て記入する。而して取引の頻繁の豫想せらるゝ口座ほど多くの行数を準備して置く。

『摘要』欄には、貸借発生の原因、契約の條件等を記入する。

『貸シノ部』にありては、前年度より繰越貸しの存する時には、その繰越高を先づ第一に『残額』欄へ記入する。そして『摘要』欄には『前年度ヨリ繰越』と書く。年度内に發生した貸しは現金日記帳に『財産的支出』として、また貸しの返済受は『財産的收入』として記入せらるゝが故に、その都度又は毎月末に其の日の日附で前者は『貸シ』欄へ、後者は『返済受』欄へ轉記し、その残額を算出して『残額』欄に記入する。

『借りノ部』にありても前年度よりの繰越借りの存するときには、その繰越高を同様に先づ第一に年度始の日附で『残額』欄に記入し、『摘要』欄には『前年度ヨリ繰越』と書く。年度内に發生した借りは、現金日記帳に『財産的收入』として、また借りの返済は『財産的支出』として記入せらるゝが故に、前者を『借り』欄へ後者を『返済』欄へ轉記してその残額を『残額』欄に記入する。

貯金、預金等の利子が現金收入として受取られずに、夫等の帳簿に直接繰入れ記入せられた場合には、それだけの利子を一旦現金收入として受取り、然る後に貯金又は預金したと考へて、先づ第一に現金日記帳の『所得的收入』欄に所得的收入として、『財産的支出』欄に貯金又は預金支出として、記入し、然る後にその貯金又は預金額をこの『貸シノ部(貸シ)』欄へ轉記するのである。反対に借入金の利子を借入證書の書き更により借入元金に繰入れて貯ふ場合には、然らず新にその利子だけの借金をして、その金で利子を支拂ひたるものとして、現金日記帳の『財産的收入』と『所得的支出』との兩欄に同一額を記入し、然る後にその日の日附で『財産的收入』欄の記入数字をこの整理帳の『借りノ部(借り)』欄へ轉記整理するのである。

年度末には夫々年度末残額を算出し、最後の行に年度末日附で『次年度へ繰越』として『残額』欄に記入する。

〔貸シノ部〕(記入例)

| 口・座 | 月日 | 摘要 | 貸 (財産的支出) | 返 済 (財産的收入) | 残 額 |
|------|-------|---------|--------------|-------------------|--------|
| 郵便貯金 | 3. 1 | 前年度ヨリ繰越 | | | 65.00 |
| | 6.23 | 貯金 | 10.00 | | |
| | 11.24 | ク | 5.00 | | |
| | 2.28 | 次年度へ繰越 | | | 80.00 |
| 微兵保険 | 3. 1 | 前年度ヨリ繰越 | | | 25.60 |
| | 11.16 | 第三回拂込 | 85 | | |
| | 2.28 | 次年度へ繰越 | | | 55 |

〔借リノ部〕(記入例)

| 口・座 | 月日 | 摘要 | 借 (財産的收入) | 返 済 (財産的支出) | 残 額 |
|----------------|-------|---------|--------------|-------------------|--------|
| 産業組合 (建築資金) | 3. 1 | 前年度ヨリ繰越 | | | 257.41 |
| | 6.25 | 償還 | | 39.05 | |
| | 12.25 | ク | | 40.52 | |
| | 2.28 | 次年度へ繰越 | | | 177.84 |
| 大正頼母子譲 | 3. 1 | 前年度ヨリ繰越 | | | 50.00 |
| | 12.27 | 空掛 | | 10.00 | |
| | 2.28 | 次年度へ繰越 | | | 40.00 |
| 橋本商店 | 3. 1 | 前年度ヨリ繰越 | | | 11.20 |
| | 4.14 | 前年度分支拂 | | 20 | |
| | 2. 1 | 棉質油粕買掛 | 5.00 | | |
| | 2.28 | 次年度へ繰越 | | | 5.00 |

(3) 現物整理帳

現物も亦貸借取引と同じく各品目別に口座を設けて整理するときに、各品目現物のその時々の在高及び出入状態を一目瞭然たらしめることが出来る。併し現物はどんなものでも整理せねばならないと言ふ譯合のものではなく、どれだけの品目に限るかは本簿記の決算終了後に於て擴張計算として、どの部門の經營計算を行はんとするかに従つてきまるものである。例へば養畜部門の經營計算を行ふためには、養畜部門の主産物、(鶏卵、牛乳等)は勿論、副産物(鶏糞、厩肥等)のすべてを夫々品目別に整理すると共に、養畜部門に用ひられる購入現物(配合飼料、大豆油粕、穀等)を始め飼料や敷草等として用ひられる一切の自給現物(批、屑米、穂麥、稻葉、乾草等)を正確に整理しておかねばならない。

記入上の要項を述ぶれば次の如くである。

『口座』のところには、整理を要する現物の品目を記入する。記入の頻繁なる品目、例へば玄米、稻葉等に對しては數頁を準備して置く。

『摘要』欄には、受入、拂出の原因その他参考となるべき事項を記入する。

『受入ノ部』は『生産』『購入』の二欄に分れて居り、『生産』欄には、生産物をとり入れたときに、その日附で、又はその月末に勞働日記帳の『備考(現物受拂控)』欄を参照して取纏めて月末日附で記入する。

『購入』欄には、肥料、飼料等の購入高及び收得高(小作料としての收得米等)を受入れせる日附で記入する。

『拂出ノ部』も『販賣』『費消』の二欄に分たれて居り、而して『販賣』欄には米麥等の販賣高及び支拂高(小作料又は勞銀等として支拂米麥薪等)を拂出せる日附で記入する。

『費消』欄は、更に『所得的費消』欄と『家計消費』欄とに分れて居り、『家計消費』欄には家計仕向現物を現物日記帳の『家計仕向』欄から轉記する。『所得的費消』欄には肥料、飼料等の費消を勞働日記帳の『現物受拂控』欄から轉記する。

『残高』欄には、年度始第一の記入として前年度よりの繰越高を記入し、その後は必要に應じて残高を算出記入し、年度末には必ず残高を算出して實在上の在高と照合せしめる。この年度末の残高は財産臺帳の當該現物の年度末數量と一致せねばならないことは勿論である。

| 口座 稲米 | | 現物整理帳(記入例) | | | | | | | |
|-------|---------------------------------------|------------|----------------------|----------------------|-----|-----------|------|------|--|
| 月 日 | 摘要 | 受 入 | | 拂 出 | | | | 残 高 | |
| | | 生 产 | 購 入 (收得現物 ヲ含ム) | 販 賣 (支拂現物 ヲ含ム) | 費 消 | 所得的 費消 | 家 消 | | |
| 3. 1 | 前年度ヨリ繰越 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 400 | |
| 3.25 | 家計仕向 | | | | | | 40 | | |
| 4. 5 | 夕 | | | | | | 40 | | |
| 4.25 | 夕 | | | | | | 40 | | |
| 5. 5 | 夕 | | | | | | 40 | | |
| 5.25 | 夕 | | | | | | 40 | | |
| 6. 5 | 夕 | | | | | | 44 | 60 | |
| 11.25 | 農林六號作付面積 2 反 5 故步 6.4 石、 反當 2.56 石 | 6.40 | | | | | | | |
| 夕 | 家計仕向 | | | | | | 60 | 670 | |
| 12.15 | 朝日作付面積 3 反歩 9 石 反當 3 石 | 9.00 | | | | | | | |
| 12.20 | 法華寺へ齊米 | | | | | | 20 | | |
| 12.25 | 水利組合へ支拂 | | | 支 10 | | | | | |
| 夕 | 産業組合へ管理米供出 | | | 9.00 | | | | 6.40 | |
| 2.25 | 支家計仕向 | | | | | | 40 | | |
| 2.28 | 次年度へ繰越 | | | | | | | 5.74 | |
| | 計 | 23.50 | 收 1.20 | 17.16 | | | 5.80 | | |

| 口座 硫安 | | 現物整理帳(記入例) | | | | | | | |
|-------|----------|------------|----------------------|----------------------|-----|-----------|--------|--------|--|
| 月 日 | 摘要 | 受 入 | | 拂 出 | | | | 残 高 | |
| | | 生 产 | 購 入 (收得現物 ヲ含ム) | 販 賣 (支拂現物 ヲ含ム) | 費 消 | 所得的 費消 | 家 消 | | |
| 3. 1 | 前年度ヨリ繰越 | | | | | | | 10.000 | |
| 3. 7 | 橋本商店ヨリ購入 | | | | | | 20.000 | | |
| 3.16 | 桑園へ施肥 | | | | | | | 10.000 | |
| 3.18 | 夕 | | | | | | | 10.000 | |
| 5.16 | 茄子へ施肥 | | | | | | | 2.000 | |
| 6.20 | 組合ヨリ購入 | | | | | | 40.000 | | |
| 7.20 | 桑園へ施肥 | | | | | | | 20.000 | |
| 7.29 | 水田へ施肥 | | | | | | | 25.000 | |
| 8.22 | 白菜、大根へ施肥 | | | | | | | 10.000 | |
| 1. 7 | 組合ヨリ購入 | | | | | | 30.000 | | |
| 2. 8 | 小麥へ追肥 | | | | | | | 3.500 | |
| 2.13 | 裸麥へ追肥 | | | | | | | 5.000 | |
| 2.28 | 次年度へ繰越 | | | | | | | 23.500 | |
| | 計 | | | | | | 90.000 | 76.500 | |

臺 帳

一、家族臺帳

家族は農家経済にありて、一面に於て労働力として財産と並んで重要な所得手段（金儲けの道具）であると共に、他面家計に於てその所得（儲けた金）を消費するものである。故に家族臺帳には之等両面の状態を明かにするやうに記入せねばならない。

之等の関係から、家族員の外に同居人や年雇等をも記入して置くを便宜とする。長く同居せざるも仕送りを受ける遊學中の子女や、仕送りをする出稼中の子弟等は矢張り家族員としてこゝに記入する。之に對し、戸籍面上では未だ家族員であつても、すでに世帯を別にしてゐる者は記入してはならない。

『労働能力』欄には、男子に對しては男一人前の働きあるものを基準（1.0）とし、女子に對しては女一人前の働きある者を基準（1.0）として、男女各別の基準に従つて各人の労働能力を「1.0」とか「0.8」とか記入する。此の數字は労働日記帳の各旬末に於て、老人及び子供等の労働を男女各別に一人前の標準労働に『換算率』として用ひられる。

『備考』欄には、主として從事するのが農業か、副職業（例へば役場の吏員、教員等の如き）か又は公職（村會議員、産業組合理事等の役員）を有するか否か、子女にありては在學中であるか否か等を記入する。相當の年齢になりて労働能力の不相應に低い者は、その理由（病身等）を書く。またその年度内に於て、家族の中に出産、死亡、遊學、出稼等の出来事があつた場合には、その事を年度末に於て此の欄に記入して置く。

(1) 家族臺帳 (記入例)

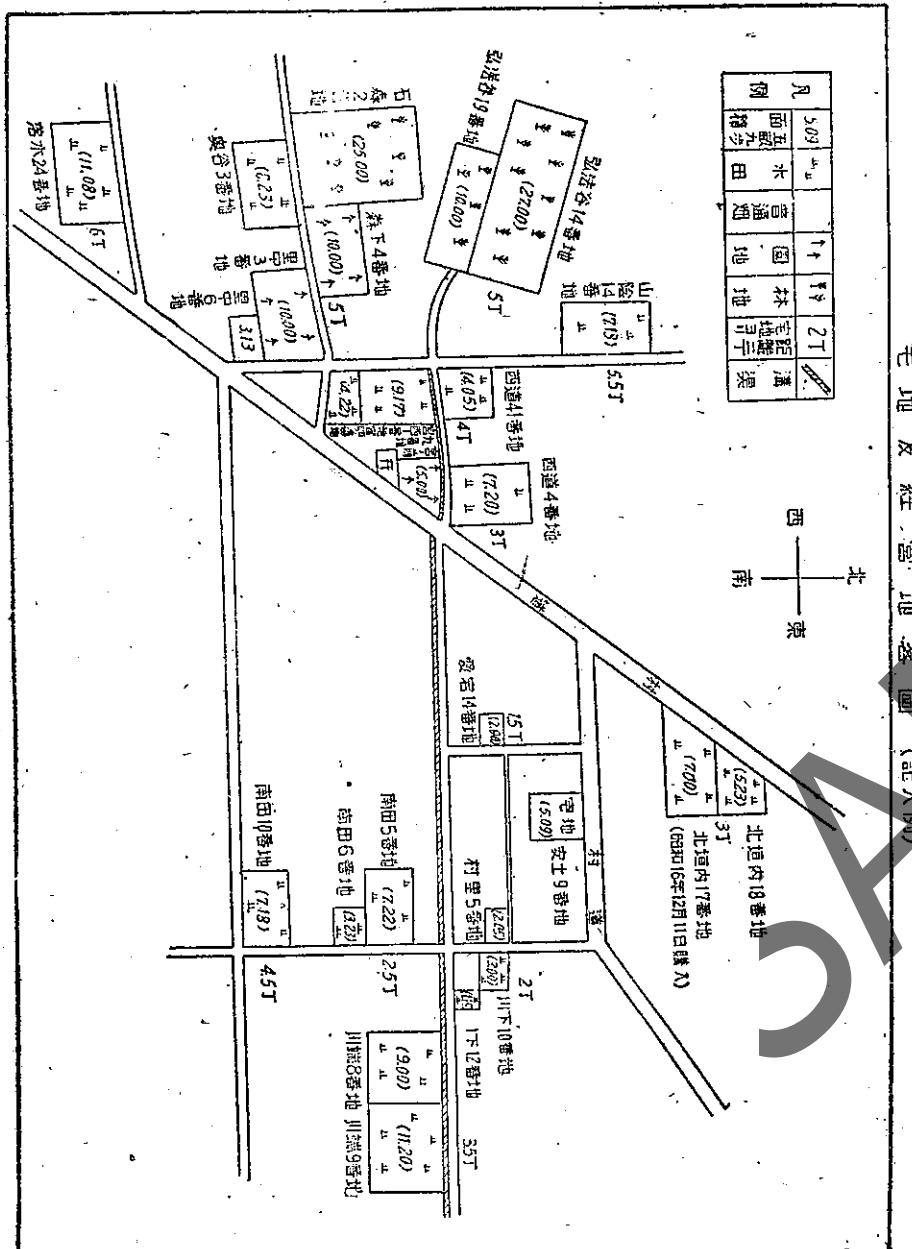
| 男 女 別 | 經營主 トノ續柄 | 姓 名 | 昭和16年 | | |
|-------------|-------------|--------|--------|------------------|-------------|
| | | | 年 齢 | 労 働 能 力 | 備 考 |
| 男 | 經營主 | 岩本達雄 | 42 | 1.0 | 農業實行組合役員 |
| | 父 | 久幸三郎 | 65 | 0.6 | 區委員 |
| | 長男 | 久英雄 | 18 | 0.8 | 青年團員 |
| | 次男 | 久辰次郎 | 17 | 0.8 | 久 |
| | 年 雇(男) | | | | |
| | 妻 | 岩本フミ | 39 | 1.0 | |
| 女 | 長女 | 久キク | 15 | 0.5 | 國民學校 高等科一年生 |
| | 次女 | 久トヨ | 10 | | 久初等科三年生 |
| | 年 雇(女) | | | | |

二、作付臺帳

作付臺帳には宅地及經營地略圖、圃場別作物作付表、生産の大要、の三表であつて(1)宅地及經營地の略圖は記入例の如く宅地を中心として經營地を圖示し、土地購入等の爲變更を生じた場合はその年月を附記して訂正する。(2)圃場別作物作付表は各圃場別に作付作物名及其作付反別を毎年記入し作付期間を植付より收穫迄の間記入例に準じ棒線にて圖示する。(3)生産の大要には主要生産物を種目別に作付反別又は飼養數量、生産量、單位當收量を毎年記入すること。

(2) 園場別作物作付表 (記入例)

| 田畠ノ別 | 圃場名及番地 | 反別 | 昭和16年 | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|-------------------|-------|-----------|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|
| | | | 作付作物 | | 作付期間 | | | | | | | | | | | |
| | | | 作物名 | 作付反別 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
| 田(乾田) | 川下 10番地 | 歩 款 3 00 | 小麥 | 散 3.00 | | | | | | | | | | | | |
| | 川下 12番地 | | 西瓜 | 散 3.00 | | | | | | | | | | | | |
| | 南田 5番地 | | 裸麥 | 散 3.00 | | | | | | | | | | | | |
| | 宮西 1番地 | | 苗代 | 1.19 | | | | | | | | | | | | |
| | 西道 4番地 | | 水稻 | 1.19 | | | | | | | | | | | | |
| | 田(湿田) | | 裸麥 | 7.22 | | | | | | | | | | | | |
| | 山陰 14番地 | | 水稻 | 7.22 | | | | | | | | | | | | |
| | 川端 8番地 | | 紫雲英 | 7.22 | | | | | | | | | | | | |
| | 村裡 5番地 | | 蠶豆 | 3.17 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 裸麥 | 6.00 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 水稻 | 9.17 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 小麥 | 9.17 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 紫雲英 | 7.20 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 水稻 | 7.20 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 裸麥 | 7.20 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 水稻 | 7.13 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 水稻 | 9.00 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 馬鈴薯 | 1.00 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 大豆 | 1.00 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 裸麥 | 1.00 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 菠蘿草 | 0.06 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 水菜 | 0.05 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |



(3) 生産の大要(記入例)

| 種目 | | 田畠ノ別 | 昭和16年 | | | |
|------|-----|----------|----------------|----------|---------|--------|
| | | | 作付反別又 ハ飼養數量 | 生産量 | 単位當收量 | 備考 |
| 稻作 | 水稲 | 梗玄米 | 田 | 95.00 | 石 27.40 | 石 2.88 |
| | 稻穀 | 梗玄米 | タ | 5.23 | 1.60 | 2.76 |
| | 陸稻 | | | | | |
| | | | | | | |
| 麥 | 大麥 | | | | | |
| | 裸麥 | 田 | 33.13 | 7.00 | 2.10 | |
| | 小麥 | タ | 18.01 | 2.80 | 1.56 | |
| 雜穀 | 大豆 | 豆 | 4.08 | 0.47 | | |
| | 小豆 | 豆 | 0.03 | | | |
| | 蠶豆 | 豆 | 3.17 | 0.44 | | |
| 蔬 | 馬鈴薯 | 田 | 1.05 | 50 | | |
| | 里半 | タ | 1.05 | 45 | | |
| | 甘藷 | 豆 | 1.00 | 80 | | |
| | 大根 | | 0.15 | 67 | | |
| | 茄子 | | 0.15 | 15 | | |
| | 白菜 | 田 | 0.10 | 55 | | |
| | 西瓜 | タ | 3.00 | 270 | | |
| 果樹 | 梨 | 豆 | 10.00 | 800 | 800 | |
| | 柿 | タ | 2.00 | 100 | 500 | |
| 特用作物 | 菜種 | 田 | 5.00 | 石 0.58 | 石 1.16 | |
| | 烟草 | 豆 | 5.00 | 22 | 44 | |
| | | | | | | |
| 養畜 | 春蠶 | 上繭 | 40 | 石 28.800 | 石 7.200 | |
| | 玉繭 | | | 2.000 | | |
| | 晚秋蠶 | 上繭 | 30 | 石 17.600 | 石 5.867 | |
| | 玉繭 | | | 0.900 | 0.300 | |
| 畜 | 牛 | 役牛(改良和種) | 1 | | | |
| | 鶏 | 白色レグボン | | | | |

三、財産臺帳

(1) 土地

田、畠、山林、原野、池沼、宅地等の順序で成る可く一枚毎に記入する。『面積』欄にはその實測面積を、『價額』欄にはその地價を記入する。一度價額を決定したなら、年々同一價額を次年度へ持ち越すこととする。『増殖額』欄は、その農家に於て開墾を行つたとか、土地改良を行つたとかした特別な年度以外は記入を行はない。開墾又は永久的土地改良を行つて土地の年度末價額が増加した場合には、年度末増加價額を構成する自家勞銀見積價額をこの『増殖額』欄に、それ以外の購入材料費及び雇傭勞銀等の合計を『財産的取引ニヨル増減』欄に記入する。以上を判り易く表はすならば次の如くである。

購入材料費}…『財産的取引ニヨル増減』欄に記入せられる部分
雇傭勞銀費}…『増殖額』欄に記入せられる部分
+自家勞銀見積額}…『増殖額』欄に記入せられる部分
年度末土地増加價額

開墾等による土地増加價額の評價は、自家勞働に関しては成る可く控へ目に行ふを要す。

備考 本臺帳に於て點斜線のひかれてある欄は特別の場合を除いては記入を要せない欄であることを表はするものである。

『財産的取引ニヨル増減』欄には、その年度内に於て購入又は賣却によりて土地が増加又は減少した場合、年度末に於て現金日記帳を参照して日附と共にその増減面積並に價額を記入する。

次年度の『面積』及び『價額』欄は、その年の年度末現在の『面積』及び『價額』欄に兼用せらるべきものであつて、年度末に於て年度末現在の面積及び價額を記入する。小作權價額ある場合は自作地にありては土地價格に合算計上し借入地にありては年度始價額欄に『小作權』として其價額を併記し總括表に於て夫々地目別に小作權價格の合計を括弧外に記入する。財產臺帳集計に當りては小作權價格を土地價格に合算する。『摘要』欄には、所在字名及地番参考事項を記入する。『賃貸價格又は小作料』欄は、所有地の場合は賃貸價格借入地の場合は小作料を記入する。借入小作地は自家所有のものでないから本來こゝに記入せらる可きものではないが、便宜上所有地と同様に記入し置き、その面積及び價額に括弧を附して所有地と區別する。土地全體の合計を算出する場合にも必ず所有地と借入小作地とは別々に合計するを要する。

(1) 土 地 (記入例)

| 種目 | 摘要 | 自貸借入 作付地 ノ 地地別 | 賃貸價格 又ハ 小作料 | 昭和 16 年 | | | 昭和 17 年 | | |
|-----------|----------|-------------------------|-------------------|-----------------|----------|---------------------|---------|----------|--------------------|
| | | | | 年 度 始 | | 增殖額 | 年 度 始 | | 財產的取 引ニヨル 増減 |
| | | | | 面 積 | 價 額 | | 面 積 | 價 額 | |
| 田 (乾田) | 川下 10 番地 | 自 | 11.78 | 3.00 | 329.84 | | 3.00 | 329.84 | |
| | 川下 12 シ | シ | 6.23 | 1.19 | 174.44 | | 1.19 | 114.44 | |
| | 南田 5 シ | シ | 34.80 | 7.22 | 974.40 | | 9.00 | 974.40 | |
| | シ 6 シ | シ | 16.95 | 3.23 | 474.60 | | 3.23 | 474.60 | |
| | シ 10 シ | シ | 29.64 | 7.18 | 829.92 | | 7.18 | 829.92 | |
| | 宮西 1 シ | シ | 43.05 | 9.17 | 1,205.40 | | 9.17 | 1,205.40 | |
| | シ 2 シ | シ | 18.33 | 4.22 | 513.24 | | 4.22 | 513.24 | |
| | 西道 4 シ | シ | 31.24 | 7.20 | 874.72 | | 7.20 | 874.72 | |
| | シ 41 シ | シ | 20.50 | 4.05 | 574.00 | | 4.05 | 574.00 | |
| | 北垣内 18 シ | シ | 22.23 | 5.23 | 622.44 | | 5.23 | 622.44 | |
| | シ 17 シ | | 27.30 | | | 12月11日 買入 789.90 | 7.00 | 798.90 | |
| | 山陰 14 シ | 借 | (小作料 石 100) | 50.00 (7.13) | (740.00) | | (7.13) | (740.00) | |
| (温田) | 川端 8 シ | 自 | 32.00 | 9.00 | 896.00 | | 9.00 | 896.00 | |
| | シ 9 シ | シ | 43.30 | 11.20 | 1,212.40 | | 11.20 | 1,212.40 | |
| | 奥谷 3 シ | シ | 32.60 | 8.23 | 912.80 | | 8.23 | 912.80 | |
| | 落水 24 シ | シ | 41.80 | 11.08 | 1,170.04 | | 11.08 | 1,170.04 | |

(2)

| 種目 | 摘要 | 自貸借入 作付地 ノ 地地別 | 賃貸價格 又ハ 小作料 | 昭和 16 年 | | | 昭和 17 年 | | |
|-----------|----------|-------------------------|-------------------|----------------|---------------|--------------------|---------|-----|--------------------|
| | | | | 年 度 始 | | 增殖額 | 年 度 始 | | 財產的取 引ニヨル 増減 |
| | | | | 面 積 | 價 額 | | 面 積 | 價 額 | |
| 田 (乾田) | 白川 27 番地 | 貸 | 28.80 | 7.11 | 806.40 | | | | |
| | シ 28 シ | シ | 33.90 | 8.03 | 949.20 | | | | |
| | 山路 3 シ | シ | 32.54 | 8.00 | 911.12 | | | | |
| | 普通烟 | 村 里 5 シ | 自 | 3.90 | 2.05 | 117.00 | | | |
| | | 里 中 6 シ | シ | 4.80 | 3.13 | 144.00 | | | |
| | | 愛宕 14 シ | (借) | (小作料 7.00) | 小作權 (2.00) | 5.00 (100.00) | | | |
| | | 闊地 森下 4 シ | 自 | 17.00 | 10.00 | 510.00 | | | |
| | | 里 中 3 シ | シ | 15.97 | 10.00 | 479.10 | | | |
| | | 宮ノ前 9 シ | 借 | (小作料 10.00) | 小作權 (5.00) | 100.00 (250.00) | | | |
| | | 林地 弘法谷 14 シ | 自 | 3.51 | 27.00 | 405.00 | | | |
| | | シ 19 シ | シ | 1.30 | 10.00 | 150.00 | | | |
| | | 石森 2 シ | シ | 2.50 | 25.00 | 375.00 | | | |
| | | 宅地 安土 9 シ | シ | 30.80 | 5.00 | 700.00 | | | |

(3)

| 種目 | 摘要 | 賃貸價格 又ハ 小作料 | 昭和 16 年 | | | 昭和 17 年 | | |
|-----|--------|-------------------|-------------|--------------------|-----|----------------|-------------|--------------------|
| | | | 年 度 始 | | 増殖額 | 財産的取引ニヨル 増減 | 年 度 始 | |
| | | | 面積 | 價額 | | | 面積 | 價額 |
| 貸付地 | 田 地 | 西 95.24 | 面積 23.14 | 價額 2,666.72 | | | 面積 23.14 | 價額 2,666.72 |
| | 畑 地 | | | | | | | |
| 經營地 | 田 一毛作園 | 149.70 | 40.21 | 4,191.24 | | | 40.21 | 4,191.24 |
| | 田 二毛作田 | 262.05 | 55.19 | 6,573.00 | | | 62.19 | 7,371.90 |
| | 畑 普通畑 | 8.70 | 5.18 | 261.00 | | | 5.18 | 261.00 |
| | 園 地 | 32.97 | 20.00 | 989.10 | | | 20.00 | 989.10 |
| | 林 地 | 7.31 | 62.00 | 930.00 | | | 62.00 | 930.00 |
| | 原野 其他 | - | - | - | | | - | - |
| | 宅 地 | 30.80 | 5.00 | 700.00 | | | 5.00 | 700.00 |
| | 合 計 | 586.77 | 212.12 | 16,311.60 | | | 219.12 | 17,109.96 |
| | 田 小作料 | - | - | - | | | - | - |
| | 田 一毛作田 | 1.00 | 小作權 (7.13) | 50.00 740.00 | | | 小作權 (7.13) | 50.00 740.00 |
| 借入地 | 田 二毛作田 | 7.00 | 小作權 (2.00) | 50.00 100.00 | | | 小作權 (2.00) | 50.00 100.00 |
| | 畑 普通畑 | 10.00 | 小作權 (5.00) | 100.00 250.00 | | | 小作權 (5.00) | 100.00 250.00 |
| | 園 地 | | | | | | | |
| | 合 計 | | 小作權 (14.13) | 155.00 1,090.00 | | | 小作權 (14.13) | 155.00 1,090.00 |
| | 經營耕地計 | 136.11 | | | | | 143.11 | |

註 括弧内ニハ借入地ノ面積及價額ヲ記入シ、括弧外ニハ小作権價格ヲ記入スルコト。

(2) 建物

母屋、倉庫、納屋、畜舎、鶏舎、肥料舎、……及び土地改良等の地上及び地下の建造物を一棟毎に記入する。建物の年度始價額は、新築價額から新築後現在迄の銷却額(減價銷却額)の總和を差引いて算出する。

$$\text{銷却額} = \frac{\text{新築價額} - \text{廢棄價}}{\text{總使用見込年數}}$$

$$\text{年度始價額} = \text{新築價額} - \text{銷却額} \times \text{現在迄の使用年數}$$

『摘要』欄には、新築價額、新築せる年、建方及び用途(自家用か貸家か)並に賃貸價額を記入して置く。また銷却額計算の式を $\frac{\text{新築價額} - \text{廢棄價}}{\text{總使用見込年數}}$ なる形で記入して置く。例へば新築價額が 2,100 圓、總使用見込年數が 80 年、使用後の廢棄價が 100 圓と見込まる場合の銷却額計算の式は、

$$\frac{2,100\text{圓} - 100\text{圓}}{80} = 25\text{圓}$$

『銷却額』欄には、年度末に於てその年度の銷却額を記入する。

『増殖額』欄には、普通の農家に於ては全然記入を行はざるをよしとする。しかしながら建物を主として自家労働で新築又は改築せる場合には、その自家勞銀見積額をこの『増殖額』欄に記入するのである。この場合に自家労働に對しては控へ目の評價を行ふ。僅かしかし自家労働を用ひない新築又は改築の場合には、その價額の中に自家勞銀見積額を全然計上せず、従つて『増殖額』欄にも記入を行はざる簡便法を採用するのがよい。

『財産的取引ニヨル増減』欄には、その年度内に於て新築、増築又は改築により建物價額が増加した場合及び賣却又は廢棄處分により減少した場合、現金現物日記帳を參照して日附と共にその増減數量並に價額等を年度末に於て記入する。

次年度の『數量』及び『價額』欄はその年度の年度末『數量』及び『價額』欄に代用せらるるものであるから、年度末に於て年度末現在の事實を記入する。『財産的取引ニヨル増減』欄の記入なき年に於ては、『價額』欄の數字から『銷却額』欄の數字を差引いた殘額を、次年度の『價額』欄の數字即ち年度末價額として記入する。

『土地改良』とは、灌漑排水構及暗渠排水設備のやうな消耗性の地下建造物を云ふのであつて、價額の見積りや銷却額の出し方は他の建物に於けると同様である。

(2) 建物(記入例)

| 種自 | 摘要 | 昭和16年 | | | | 昭和17年 | | | |
|-------|---|-------|----------|-------|---------------------|-------|----------|-----|--|
| | | 年度始 | | 販却額 | 増殖額 | 年度始 | | 販却額 | |
| | | 数量 | 價額 | | | 数量 | 價額 | | |
| 母屋 | 瓦葺平家建($\frac{2,100円 - 100円}{80} = 25円$) 將來ノ使用見込年數 60年 | 25 | 1,60000 | 2500 | | 25 | 1,57500 | | |
| 倉庫 | 瓦葺二階建($\frac{770 - 50}{80} = 9.00$) 55年 | 6 | 54500 | 900 | | 6 | 53600 | | |
| 監室 | 瓦葺平家建($\frac{485 - 30}{70} = 6.50$) 65年 | 8 | 45250 | 650 | | 8 | 44600 | | |
| 納屋 | 藁葺平家($\frac{306 - 18}{60} = 4.80$) 50年 | 6 | 25800 | 480 | | 6 | 25320 | | |
| 家禽舍 | 杉皮葺($\frac{70}{50} = 1.40$) 45年 | 7 | 6300 | 140 | | 7 | 6160 | | |
| 厩舎 | 藁葺平家($\frac{60}{19} = 3.20$) 19年 | 5 | 6000 | 320 | | 5 | 5680 | | |
| 扉及門 | ($\frac{40}{20} = 2.00$) 20年 | 8 | 4000 | 200 | | 8 | 3800 | | |
| 井戸 | 永久ニ使用ニ耐ニ | 1 | 2000 | - | | 1 | 2000 | | |
| 肥料溜 | セメント造($\frac{60}{40} = 1.50$) 20年 | 3 | 3000 | 150 | | 3 | 2850 | | |
| 堆肥舎 | 藁葺($\frac{140}{40} = 3.50$) 購入材料 50圓、大工賃 15圓 自給材(杉15本) 75圓、計 140圓 | - | - | 350 | 本年八月新築完成費 140.00 | 4 | 13650 | | |
| 暗渠 | 川端ノ田($\frac{60}{15} = 4.00$) 10年 | 30 | 4000 | 400 | | 30 | 3600 | | |
| 計(建物) | | | 3,108.50 | 60.90 | | | 3,187.60 | | |

註 (1) 堆肥舎新築ノタメノ現金支出ハ 65圓デアルガ、他ニ自給材(杉15本) 75圓ヲ使用セルタメニ新築
價額ハ 65.00圓 + 75.00圓 = 140.00圓トナツタノデアル。此ノ自給材 75圓ハ後述スル「大植物」杉
ノ年度末ヲ 75圓減少シ、堆肥舎ニ 75圓ヲ加算セルモノデアル。

(2) 堆肥舎ノ新築完成期ハ半期前ナルガ故ニ 1ヶ年間ノ銷却額ヲ 16年度ニ計上セリ。

(3) 大植物

桑樹以上の木本性植物を指すのであつて桑樹、果樹、林木等の順序で記入する。

『大植物』の用役期にあるもの(一人前に達したる後の桑樹、果樹)は年々減耗し、之に對し、育成期にあるもの(林木、仕立期にある桑樹及び果樹)は年々増殖する。之を以て、前者に對してはその減耗額を見積つて『銷却額』欄に記入し、後者に對してはその増殖額を見積つて『増殖額』欄に記入するのである。

$$\text{年度末價額} = \text{年度始價額} - \text{銷却額}$$

$$\text{又は } \text{年度末價額} = \text{年度始價額} + \text{増殖額}$$

『面積』欄には植栽面積を、『價額』欄にはその年度始現在の價額を記入する。『摘要』欄には樹齡、銷却額又は増殖額計算の基礎數字その他参考事項を記入して置く。『價額』欄に記入する年度始價額は、育成期にあるものは定植後年々の純費用(育成のために要した苗木代、肥料代、労銀、小作料等の總費用から桑葉、桑枝、下草間伐材等の評價収益額を差引いた純費用)の累計として評定する。而して用役期にあるものはこの育成原價を基礎とし、経過用役年數の減價銷却額分を控除して算出する。

併し桑園や果樹園を年々補植し、その農家の桑樹總體として又は果樹總體として略々増減のないやうな栽培法をとつてゐる場合には、年度始價額と年度末價額とを同一と看做し、『銷却額』も『増殖額』も零とする簡便法を採用する。また普通農家の所有する雜木山の雜木も、大體に於て年々減耗も増殖もないものと看做して同様に取扱つて差支へない。

『財産的取引ニヨル増減』欄には、果樹園、山林を購入したり賣却した場合に、年度末に於てよく現金現物日記帳を調べて、自附と共にその數量及び價額を記入する。

次年度の『面積』及び『價額』欄は、その年の年度末『面積』及び『價額』欄に、兼用せらるゝ事は同様である。

(3) 大 植 物 [桑樹以上ノ木本性植物] (記入例)

| 種 目 | 摘 要 | 昭 和 16 年 | | | | 昭 和 17 年 | |
|-----------|--|----------|----------|------|-------|---------------------------|----------------|
| | | 年 度 始 | | 銷却額 | 増殖額 | 年 度 始 | |
| | | 面積 | 價 額 | | | 面積 | 價 額 |
| 桑 樹 | 根刈 2年生(第一年目 78.53圓 育成納費用)第二年目 22.08 | 10.00 | 78.53 | | 22.08 | | |
| | 根刈 6年生($\frac{112.87 \text{円}}{12} = 9.41 \text{円}$) 年度始價格 $112.87 - 9.41 \times 2 = 84.05$ | 10.00 | 94.05 | 9.41 | | 10.00 | 84.64 |
| | 根刈 9年生 年々補植銷却不要 | 5.00 | 56.44 | | | 5.00 | 56.44 |
| 杉 | 40年生 | 27.00 | 1,080.00 | | 29.70 | 堆肥用材 トクダ伐採 15本75.00 | 27.00 1,034.70 |
| 檜 | 20年生 | 10.00 | 300.00 | | 9.00 | | 10.00 309.00 |
| 雜 木 | 薪炭採取用 | 20.00 | 240.00 | | | 20.00 | 240.00 |
| 竹 | | 5.00 | 100.00 | | | 5.00 | 100.00 |
| 計 (大 植 物) | | | 1,949.02 | 9.41 | 60.78 | | 1,925.39 |

註 杉ノ増殖額=(年度始價額+土地價額)×0.02=(1,080.00圓+405.00圓)×0.02=20.70圓

杉ノ年度末價額=(1,080.00圓+29.70圓)-75.00圓=1,034.70圓

(上式中75圓=ツイテハ「建物」堆肥合ノ部参照)

(4) 大 動 物

羊豚以上の大家畜を牛、馬、羊、豚の順序で記入する。大動物は大植物と同じく、用役期にあるもの（一人前に達したる後の役畜、乳牛等）は年々減耗し、育成期にあるもの（育成中の牛馬、育肥中の牛豚）等は年々増殖する。

之を以つて、前者に對してはその減耗額を見積つて『銷却額』欄に記入し、後者に對してはその増殖額を見積つて『増殖額』欄に記入するのである。

$$\text{年度末價額} = \text{年度始價額} - \text{銷却額}$$

$$\text{又は } \text{年度末價額} = \text{年度始價額} + \text{増殖額}$$

役牛馬、乳牛及種牛馬等の年度始價額は市價を基礎として評定し、年度末價額はその年度の銷却額を見積りそれを年度始價額より控除して算出する。例へば記帳開始時に於ける役牛1頭の價額を240圓とし、將來4年間使役して120圓で賣却し得るものと假定すれば銷却額及び次年度始價額は次の如くである。

$$\text{銷却額} = \frac{240.00\text{圓} - 120.00\text{圓}}{4} = 30.00\text{圓}$$

$$\text{次年度始價額} = 240.00\text{圓} - 30.00\text{圓} = 210.00\text{圓}$$

育成期にある牛馬、肥育期にある牛豚等の年度始價額は市價を基礎として評定し、年度末價額はその年度の増殖額を見積りそれを年度始價額に加算して算出する。例へば記帳開始時に於ける犢1頭の價額を100圓とし、之を育成して、3年後に220圓で賣却し得るものと假定すれば、増殖額及び次年度始價額は次の如くである。

$$\text{増殖額} = \frac{220.00\text{圓} - 100.00\text{圓}}{3} = 40.00\text{圓}$$

$$\text{次年度始價額} = 100.00\text{圓} + 40.00\text{圓} = 140.00\text{圓}$$

『財產的取引ニヨル増減』欄には牛馬羊豚等を年度内に購入したり賣却した場合に（交換による買取賣渡も同様）年度末に於てよく現金現物日記帳を調べて日附と共にその價額を記入する。この場合には

$$\text{年度末價額} = \text{年度始價額} - \text{銷却額} + (\text{財產的取引ニヨル増加額} - \text{同減少額})$$

又は

$$\text{年度末價額} = \text{年度始價額} + \text{増殖額} + (\text{財產的取引ニヨル増加額} - \text{同減少額})$$

(5) 大 動 物 [羊豚以上ノ家畜] (記入例)

| 種 目 | 摘要 | 昭 和 16 年 | | | | 昭 和 17 年 | | | |
|-----|--------------|----------|---------|------------------------|-----------|----------|-------|-------|----|
| | | 年 度 始 | | 財産的取 引ニヨル 増 減 | 年 度 始 | 銷却額 | | 銷却額 | 價額 |
| | | 數量 | 價額 | | | 銷却額 | 價額 | | |
| 牛 | 改良和種(牝4才)農耕用 | 1 | 円 60000 | 円 2438 | 5月18日出荷 | 円 62438 | 一 | 一 | 一 |
| | | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 犢(當才)肥育用 | 1 | 25000 | 3030 | 5月20日交換賣渡 | 28000 | - | - | - |
| | ♂(牝2才)農耕用 | - | - | 5000 | 夕交換買取 | 40000 | 1 | 45000 | - |
| 豚 | ヨークシャー種 肥育 | 2 | 5000 | 10506 | 2月2日出荷 | 15406 | - | - | - |
| | | - | - | 1000 | 2月6日買入 | 3000 | 2 | 4000 | - |
| | | - | - | 21844 | - | - | 49000 | - | - |
| 計 | (大動物) 所有借入 | | 90000 | | | | | | |

(5) 大 機 具

新調價 10 圓以上の農具及び兼業用具を云ふのであつて、年度始價額や年度末價額の見積方法や銷却額の出し方は建物と同様であつて、その年度始價額は、新調價額から新調後現在迄の銷却額(減價銷却額)の總和を差引いて算出する。例へば新調價23 圓の稻扱機の總用役年數を10年とすれば年々の銷却額は2 圓30 錢であつて、既に新調後6年を経過せるものとすれば銷却額の總和は $2.30 \text{ 圓} \times 6 = 13.80 \text{ 圓}$ であるから、その現在價は9 圓20 錢となるのである。

『摘要』欄には銷却額計算の式や將來の用役見込年數等を記入し、『銷却額』欄には年度末に於てその年度の銷却額を記入する。

年度内に新調したり、賣却したりして増加又は減少のあつた場合には年度末に於て現金現物日記帳の記入を参照して『財産的取引ニヨル増減』欄に日附と共にその數量及價額を記入する。

兼業用に供するものは其旨『摘要』欄に記入すると共に使用割合を附記すること。

(5) 大 機 具 [新調價 10 圓以上ノ機具] (記入例)

| 種 目 | 摘要 | 昭 和 16 年 | | | | 昭 和 17 年 | | | |
|-----------|---|----------|-------|------|--------------------|----------|------|-------|----|
| | | 年 度 始 | 銷却額 | 增殖額 | 財產的取引ニヨル 増 減 | 年 度 始 | 銷却額 | 價額 | 價額 |
| | | 數量 | 價額 | | | 數量 | 價額 | | |
| 稻 扱 機 | (23圓 \div 10 = 2.30圓) 將來ノ使用見込年數 4年 | 1 | 920 | 230 | / | 1 | 690 | | |
| 穀 握 机 | ($\frac{16}{8} = 2.00$) 5年 | 1 | 1000 | 200 | / | 1 | 800 | | |
| 唐 笈 | ($\frac{35}{20} = 1.75$) 15年 | 1 | 2625 | 175 | / | 1 | 2450 | | |
| 萬 石 筒 | ($\frac{20}{20} = 1.00$) 10年 | 1 | 1000 | 100 | / | 1 | 900 | | |
| 麥 握 机 | ($\frac{20}{15} = 1.33$) 10年 | 1 | 1330 | 133 | / | 1 | 1197 | | |
| 荷 車 | ($\frac{30}{15} = 2.00$) 8年 | 1 | 1600 | 200 | / | 1 | 1400 | | |
| 噴 雾 器 | ($\frac{16}{10} = 1.60$) 6年 | 1 | 900 | 160 | / | 1 | 800 | | |
| 製 繩 機 | ($\frac{30}{10} = 3.00$) 7年 | 1 | 2100 | 300 | / | 1 | 1800 | | |
| 製 等 機 | ($\frac{35}{10} = 3.50$) 7年 | 1 | 2450 | 350 | / | 1 | 2100 | | |
| 稻 扱 機 | ($\frac{24.60}{10} = 2.46$) 10年 | | | | 10月13日 買入2460 | 1 | 2214 | | |
| 計 (大 機 具) | | | 13985 | 2094 | / | | | 14351 | |

註 稻扱機ヘ主要使用時期以前ニ購入シタカラ一ヶ年ノ銷却額ヲ 16 年度ニ計上シタノデアル。

(6) 準 現 物

準現物は小植物、小動物、小機具の三種に分ちて記入する。

(1) 小 植 物

小植物とは麥、菜種等の立毛類を云ふのであつて、立毛類の價額は作付してから評價時(年度始)までに費された費用(種子代、肥料代、勞賃等の合計)によつて見積る。『面積』欄は毎年度始に於て實査の上記入する。『價額』欄は初年度に於てのみ評價の上記入し、次年度以後に於ては著しい經營の變動(例へば麥作の全廢……)のない限り價額は小計に於て大體變化のないものと看做して個別的の記入を省略し、前年度の價額小計をそのまま當該行に轉記する簡便法を採用する。

『摘要』欄には評價の基礎數字を、『備考』欄には年度始と年度末との間に著しい差のある場合、増減の原因を記入して置く。

(2) 小 動 物

小動物とは鶏、家兎、養蜂、鯉等を云ふのであつて、之等小家畜に對しても原則として購入原價を基礎とし、販賣用の小動物に對しては、その後の増殖額を斟酌して採卵又は種用に供せられる家畜に對しては其後の減耗額を評價すべきである。併し販賣用の小家畜に對しては販賣價を基礎として販賣するに要する諸費用を斟酌して評價する簡便法を採用するも可ならむ。

自家に於て生産せる家畜に對しては生産原價評價を行ふを本則とするが、少數の小家畜を生産せる場合には費用の計算を行ふ事は事實上不可能なるが故に市價より控へ目に評價するが適當である。

小動物にありても養鶏を新に始めたり又は全廃したりして著しい變動のない限り年度末には單に『数量』欄の記入のみに止め、『價額』欄の個別的記入は省略し帳簿の小計の行にだけ年度始の小計をそのまま移記する。

相當大規模に養鶏をなす農家にありては、年度始と年度末との間に可成り著しい變動が起るであらう。然る場合には取扱いを變へる。

即ち年度末數量を實査して『年度末數量』欄に記入するのみでなく、失等を評價して、その評價價額を個別的に『年度末價額』欄に記入し、帳簿に於て新たに年度末の價額小計を算出せねばならない。

而してその増減額を『備考』欄に記入し置き、後に未販賣現物又は購入現物の増減額と同様の取扱ひに於て財產臺帳集計表の當該欄に轉記するのである。

(6) 準 現 物 (記入例)

(1) 小 植 物

| 種 目 | 摘要 | 要 | 昭 和 16 年 | | 昭 和 17 年 | |
|-------------|---|-------------|------------|-----|-------------|--------|
| | | | 年 度 始 | 備 考 | 年 度 始 | |
| | | | | | 面 積 | 價 額 |
| 稲 麦 | 種子代4升1.44圓肥料代下肥80貫1.16圓堆肥130貫4.67圓草木灰19貫1.75圓配合肥料9貫3.80圓硫安2貫79錢勞銀5.5人9.90圓牛1日2.50圓計26.01圓(反當) | 畝步 33.13 | 円 86.87 | | 畝步 38.06 | |
| 大 麦 | | | | | | |
| 小 麦 | 反當費用ハ稲麦=同ジ | 18.01 | 46.82 | | 19.08 | |
| 蠶 豆 | 種子代8升4.000圓肥料代草木灰30貫3.29圓糊紙35貫1.35圓勞銀5人9圓牛1日2.50圓計20.14圓(反當) | 3.17 | 7.25 | | 3.23 | |
| 紫 雪 英 | 種子代2升1.70圓肥料代過石10貫2.49圓糊紙25貫97錢勞銀1日1.50圓計6.66圓 | 11.25 | 7.86 | | 12.14 | |
| 野 菜 猶 | | 1.05 | 5.70 | | 1.05 | |
| 小 計 (小 植 物) | | 68.01 | 154.57 | | 74.26 | 154.50 |

(2) 小 動 物

| 種 目 | 摘要 | 要 | 昭 和 16 年 | | 昭 和 17 年 | |
|-------------|---------------|---|----------|------------|----------|-------|
| | | | 年 度 始 | 備 考 | 年 度 始 | |
| | | | | | 數 量 | 價 額 |
| 鶏(成鶏) | 採 卵 用 1 羽 2 圓 | | 羽 17 | 円 34.00 | 羽 14 | 円 |
| (中鶏) | 肥 育 用 タ 90 錢 | | 32 | 28.80 | 40 | |
| 小 計 (小 動 物) | | | | | 62.80 | 62.80 |

(3) 小 機 具

新調價10圓に達せざる小農具及び兼業用具を右の記入例に見る如き順序で記入する。

小機具類はその新舊を問はず全部その新調額價を『新調價額』欄に一先づ記入する。

後に小機具の『新調價額』欄の合計(即ち小機具全部の新調價の合計を表はす)に0.5を乗じて新舊をとりませた小機具類の現在價額を算出する方法を探るのである。

蓋し農家には新舊とりまぜた多數の小機具が存するが故に、全體の平均に於ては中古價額即ち新調價の半分と見て大差ないためである。

『数量』欄には年度始に於て年々實査の上記入する。

『新調價額』欄は初年度に於てのみ實査の上記入するに止め、次年度以後に於ては著しい經營の變更のない限り小機具現在價額に變化のないものと看做して、前年度の小機具現在價額をそのまま當該欄に轉記し、個別的記入は省略する。

(八) 小 機 具 (記入例)

(1)

| 種 目 | 摘 要 | 昭 和 16 年 | | 和 17 年 | |
|-----------------------|-----------|----------|-------------|--------|------|
| | | 年 度 始 | | 備 考 | |
| | | 數量 | 新調價額 | | |
| 耕 耘 作 付 器 | 鋤 | 単 價 | 円 銭 3.50 | 3 | 1050 |
| | 備 中 錄 | 夕 | 3.50 | 2 | 700 |
| | 風呂 錄 | 夕 | 2.50 | 4 | 1000 |
| | 万 能 | 夕 | 0.90 | 2 | 180 |
| | 田 打 車 | 夕 | 2.00 | 2 | 400 |
| | 蟹 爪 | 夕 | 0.30 | 3 | 090 |
| | 鋤 篓 | 夕 | 1.50 | 2 | 300 |
| | 移 植 鍬 | 夕 | 0.30 | 2 | 060 |
| | 定 規 | 夕 | 0.50 | 2 | 100 |
| | | | | | |
| 畜 器 | 飼 料 桶 | 夕 | 3.00 | 1 | 300 |
| | 鋸 切 | 夕 | 2.50 | 1 | 250 |
| | 金 節 | 夕 | 0.50 | 2 | 100 |
| | 飼 料 箱 | 夕 | 0.80 | 4 | 320 |
| | ホ ー ル | 夕 | 2.00 | 1 | 200 |
| | 飼 料 給 興 器 | 夕 | 0.20 | 4 | 080 |
| | 水 給 興 器 | 夕 | 0.20 | 3 | 060 |
| | 傘 形 育 饋 器 | 夕 | 5.70 | 1 | 570 |

(2)

| 種 目 | 摘 要 | 昭 和 16 年 | | 昭 和 17 年 | |
|---------------|-----------|------------|------|----------|-------|
| | | 年 度 始 | | 備 考 | |
| | | 數量 | 新調價額 | 數量 | 新調價額 |
| 置 | 蠶 架 | 單價(組) | 5.00 | 4 | 20.00 |
| | 蠶 箱 | 夕 | 0.15 | 250 | 37.50 |
| | 暖 爐 | 夕 | 4.00 | 2 | 8.00 |
| | 桑 篠 | 夕 | 4.00 | 2 | 8.00 |
| | 桑 摘 篠 | 夕 | 1.00 | 5 | 5.00 |
| | 桑 切 剪 丁 | 夕 | 2.00 | 2 | 4.00 |
| | 給 桑 台 | 夕 | 1.50 | 4 | 6.00 |
| | 蠶 網(萬) | 夕 | 0.06 | 320 | 19.20 |
| | 蠶 網(絲) | 夕 | 0.06 | 120 | 7.20 |
| | 萬 年 筷 | 夕 | 0.13 | 150 | 19.50 |
| 施 肥 灌 水 除 害 器 | 毛 羽 取 器 | 夕 | 2.30 | 2 | 4.60 |
| | 乾 濕 計 | 夕 | 3.00 | 1 | 3.00 |
| | 肥 施 管 | (1 荷) 4.00 | | 3 | 12.00 |
| | 肥 构 子 | 夕 | 1.50 | 2 | 3.00 |
| | 如 露 | 夕 | 1.50 | 1 | 1.50 |
| | 藥 劑 調 劑 桶 | 夕 | 2.00 | 1 | 2.00 |
| | | | | | |

(3)

| 種 目 | 摘 要 | 昭 和 16 年 | | 昭 和 17 年 | |
|-----------|---------|----------|-------|----------|-------|
| | | 年 度 始 | | 備 考 | |
| | | 數量 | 新調價額 | 數量 | 新調價額 |
| 收 穩 調 製 器 | 普通 鑊 | 單價 | 0.80 | 4 | 3.20 |
| | 鋸 鑊 | 夕 | 0.25 | 3 | 0.75 |
| | 攤 取 器 | 夕 | 2.00 | 1 | 2.00 |
| | 篩 | 夕 | 0.80 | 3 | 2.40 |
| | 篩 | 夕 | 1.00 | 3 | 3.00 |
| | 蓮 | 夕 | 0.30 | 130 | 39.00 |
| | 儀 器 | 夕 | 4.00 | 1 | 4.00 |
| | 稻 架 | 夕 (反當) | 10.00 | 6 | 60.00 |
| | 連 鞍 | 夕 | 0.30 | 3 | 0.90 |
| | | | | | |
| 加 工 用 器 | 製 簗 器 | 夕 | 5.00 | 1 | 5.00 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 衡 量 器 | 秤 (大) | 夕 | 9.50 | 1 | 9.50 |
| | (小) | 夕 | 1.50 | 1 | 1.50 |
| | 枰 (1 斗) | 夕 | 5.70 | 1 | 5.70 |
| | | | | | |
| | 夕 (1 升) | 夕 | 3.50 | 1 | 3.50 |
| | 夕 (1 合) | 夕 | 0.80 | 1 | 0.80 |

(4)

| 種 目 | 摘要 | 昭 和 16 年 | | 昭 和 17 年 | |
|-----|---------|--|-----------|----------|------|
| | | 年 度 始 | | 備 考 | |
| | | 数量 | 新調價額 | 数量 | 新調價額 |
| 雜 具 | スコップ | 単 價 1.20 | 1 1.20 | 1 | |
| | 剪 定 鋏 | ク 3.70 | 1 3.70 | 1 | |
| | 錠 株 刃 鋏 | ク 2.50 | 1 2.50 | 1 | |
| | 畚 土 | ク 0.80 | 4 3.20 | 4 | |
| | 蓆 | ク 0.50 | 4 2.00 | 6 | |
| | 天 球 棒 | ク 1.00 | 3 3.00 | 3 | |
| | 斧 | ク 3.00 | 1 3.00 | 1 | |
| | 鎌 | ク 2.00 | 2 4.00 | 2 | |
| | 大 鋸 | ク 3.50 | 1 3.50 | 1 | |
| | 小 鋸 | ク 1.20 | 1 1.20 | 1 | |
| | 抵 石 | ク 0.40 | 2 0.80 | 2 | |
| | 梯 子 | ク 3.00 | 2 6.00 | 2 | |
| 具 | 袋 | ク 1.00 | 3 3.00 | 3 | |
| | 檜 笠 | ク 0.20 | 3 0.60 | 3 | |
| | | | | | |
| 小 計 | | (小道具新調價額) 397.05 | | | |
| | | (小道具現在價額) 新調價額ノ半分 ×0.5 198.53 | | | |
| | | | | | |

(7) 現 物

現物は未販賣現物（生産及收得現物）と購入現物（經營用現物）と中間生産物（所謂無市價物）との三種に分ちて記入する。

(1) 未販賣現物

米麥等の生産物並びに小作料等として收得せる收得現物中、販賣せられずに年度始に存するものをよく調べて記入する。但し既に家計に仕向済みのものとして取扱はれる白米や家計用味噌、漬物等は記入してはならない。

未販賣現物は一般に販賣せられるものであるが故に評價時（即ち年度始）の市價を基礎として、市場までの搬出費を斟酌して評價する。換言すれば庭先販賣に依りて評價するを適當とする。

参考のため夫々の設定單價を『摘要』欄或は『備考』欄に記入して置く。

最後に『價額』欄の小計を算出し、然る後に末尾に附せられた年度未増減額算出のための相當欄に兩小計を夫々記入し、差引年度未増減額を算出する。而して増の場合には（増）の印を減の場合には（減）の印を附して置く。

(7) 現 物

(イ) 未販賣現物(生産及收得現物)(記入例)

| 種 目 | 摘 要 | 昭 和 16 年 | | 昭 和 17 年 | |
|-------------|-------------|----------|----------|-----------|-----------------|
| | | 年 度 始 | | 備 考 | |
| | | 數量 | 新調價額 | 新調價額 | |
| 粳 米 | 年度始價格 41.71 | 石 4.40 | 円 173.52 | 年度末 價額 | 石 5.80 円 247.69 |
| | | | | | |
| 糯 米 | タ 46.50 | 0.30 | 石 31.95 | タ 47.68 | 0.40 19.07 |
| | | | | | |
| 裸 麦 | タ 29.05 | 1.00 | 石 29.05 | タ 29.05 | 0.70 20.34 |
| | | | | | |
| 小 麦 | | | | タ 30.75 | 0.20 6.15 |
| | | | | | |
| 大 豆 | タ 35.00 | 0.04 | 石 1.40 | タ 35.00 | 0.10 3.50 |
| | | | | | |
| 里 芹 | タ 0.50 | 石 12 | 6.00 | タ 0.50 | 石 15 7.25 |
| | | | | | |
| 薪 (柴) | タ 0.40 | 石 100 | 40.00 | タ 0.40 | 石 60 24.00 |
| | | | | | |
| 小 計 (未販賣現物) | | | 263.92 | | 328.00 |

| | | | | | |
|-----------------|--|--|--|-----------|--|
| 次年度始(即年度末) 價額小計 | | | | 328.00 | |
| 年 度 始 價 額 小 計 | | | | 263.92 | |
| 差 引 (年 度 末 増 減) | | | | (増) 64.08 | |

(ロ) 購 入 現 物

金肥、購入飼料、購入種苗、農用薬品、購入農用木炭、煉炭、兼業用購入原料等にして年度始に現存するものよく調べて記入する。但し家計用購入品は記入してはならない。購入現物は庭先購入價によつて評價する。故に市場で購入し、自ら搬入せしものなるときには購入代價に庭先までの搬入費を斟酌して評價する。

帳簿に於て『價額』欄の小計を算出し、然る後に末尾に附せられた年度末増減額算出のための相當欄に兩小計を夫々記入し、差引年度末増減額を算出する。而して増の場合には(増)の印を、減の場合には(減)の印を附しておく。

— 54 —

(四) 購入現物（經營用現物）（記入例）

| 種目 | 摘要 | 昭和16年 | | 昭和17年 | |
|----|-----------|-------|------------|-------|-------|
| | | 年度始 | | 備考 | |
| | | 数量 | 新調價額 | 数量 | 新調價額 |
| 肥料 | 硫安 | 10 | 4.07 | 25 | 9.85 |
| | 過石 | 10 | 2.45 | 10 | 2.47 |
| | 臨時配合肥料五號甲 | 10 | 3.22 | | |
| | 二號甲 | | | 35 | 31.83 |
| | 石灰 | | (1俵當) 0.60 | 5 | 3.00 |
| 飼料 | 棉實油粕 | 15 | 13.65 | | |
| | 配合飼料 | 20 | 31.00 | 15 | 11.99 |
| | 醬油粕 | 10 | 1.00 | 20 | 2.20 |
| | 鹽 | 20 | 0.96(50斤) | 30 | 1.45 |
| | 糞 | | 4.00 | 20 | 8.00 |
| 其他 | | | | | |
| | 小計（購入現物） | | 38.35 | | |

| | | | | | |
|----------------|--|--|--|-----------|--|
| 次年度始（即年度末）價額小計 | | | | 52.79 | |
| 年度始價額小計 | | | | 38.35 | |
| 差引（年度末増減） | | | | (増) 14.44 | |

い) 中間生産物

他から購入せられたもの（即ち購入現物）でもなく、また販賣のために生産せられたもの（即ち未販賣現物）でもなくして主に副産物として生産せられ、再び生産に用ひられる現物類を云ふ。糞、堆肥、厩肥、糞沙等の所謂無市價物と云はるゝものである。同じ草木灰又は種類等であつても自給草木灰又は自給種類は中間生産物としてこゝに記入せられるが、他より購入せられた購入草木灰又は購入種類は購入現物であつて、中間生産物でないが故にこゝに記入してはならない。

中間生産物は同一用途に於ける同種效用をもつ最近似の有市價物の價格を基礎として成る可く控へ目に類推評價を行ふ。

中間生産物も小植物、小動物等と同じく年度末に於ては『数量』欄の記入だけに止め、『價額』欄は帳尻に於て『小計』の行に年度始の數字をそのまま移記する。蓋し中間生産物も、特別に經營の變更のなき限り年度末在高は年度始在高と合計に於て大體相等しいと見て大過ないからである。

(4) 中間生産物(無市價物)(記入例)

| 種 目 | 摘要 要 | 昭和 16 年 | | 昭和 17 年 | |
|-------------|---------|---------|--------|---------|-------|
| | | 年度始 | | 備 考 | |
| | | 数量 | 新調價額 | | |
| 種 子 苗 | 種 類 | 1升 | 円 0.30 | 升 30 | 円 900 |
| | 大 豆 種 | ク | 0.35 | 5 | 175 |
| | 里 芹 苗 | 1貫 | 0.50 | 3 | 150 |
| 肥 料 | 堆 肥 | 100貫 | 3.59 | 1,000 | 3590 |
| | 草 木 灰 | 10貫 | 1.10 | 40 | 440 |
| | 鶴 粪 | ク | 2.07 | 20 | 414 |
| 飼 料 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 其 他 | 稻 草 | 100貫 | 7.00 | 800 | 5600 |
| | | | | | |
| 小 計 (中間生産物) | | | | 850 | |
| | | 11269 | | | 11269 |

(8) 現金及準現金

現金は年度始に於ける手持ち現金全部を、貯金及び預金は年度始在高をよく調べて記入する。株券、公社債券等はその時価を書き込む。但し時價が拂込又は購入原價より高き場合には拂込又は購入原價を以てす。そして一度價額を決定して臺帳に記入した上は、特別な經濟上の變動のない限り、年々同一價額を次年度へ持ち越すこととする。組合出資金、生命保険金、懸母子講掛込金等は掛込合計額を記入する。

『摘要』欄には株券及び公社債券の額面、保険契約高、一回の掛金、拂込金等の参考となる可き事項を記入して置く。

『備考』欄には各種目別に夫々一年間の收入計、支出計を記入する。然るときには現金については次の式が成立する。

$$\text{年度末價額} = \text{年度始價額} + (\text{收入計} - \text{支出計})$$

註 上式中、年度始價格ハ年度始現金在高ヲ、年度末價額ハ年度末現金在高ヲ示ス。

收入計=所得的收入年計+財產的收入年計

支出計=所得的支出年計+家計支出年計+財產的支出年計

現金以外のものにありては一般に次の式が成立する。

$$\text{年度末價額} = \text{年度始價額} + (\text{支出計} - \text{收入計})$$

註 ノ=支出トハ貯金支出、貸付支出、掛込支出、有價證券買入支出等ヲ、收入トハ貯金引出收入、貸金受取收入、譲落札收入、有價證券賣却收入等ヲ云フ。

但し有價證券を賣却した場合には、この式は必ずしも成立しない。年度始の記入價格より或は高く或は廉く賣却した場合にはその差額だけ開きを生ずる。

(8) 現金及準現金(記入例)

(1)

| 種目 | 摘要 | 昭和16年 | | 昭和17年 | |
|-----|----------------|-------|--------|------------------------------|------------|
| | | 年度始 | | 備考 | |
| | | 数量 | 價額 | 数量 | 備考 |
| 現金 | | | 45.50 | 收入計 5,269.62 支出計 5,294.90 | |
| 貯金 | 組合貯金 | 1 口 | 775.00 | 貯金計 1,879.10 引出計 1,585.00 | 1 口 20.22 |
| | 定期月掛貯金(月2回) | 1 口 | 76.00 | 貯金計 24.00 引出計 | 1 口 100.00 |
| | 定期貯金 | 1 口 | 300.00 | 貯金計 210.50 引出計 | 1 口 510.50 |
| 及 | 郵便貯金 (長女名義) | 1 口 | 65.00 | 貯金計 15.00 引出計 | 1 口 80.00 |
| 貸付金 | 報國貯金 | | | | 1 口 3.00 |
| | 貸付金 | | 50.00 | 返済受 貸付 50.00 80.00 | 80.00 |
| 金 | 白岩義三氏へ(年利8分) | | | 4月25日貸付 | 100.00 |
| | | | | | 662 |
| 未收 | 鳥 菊 鶴 卵 | | | | 44.50 |
| 收入 | 西村氏 未收小作料 | | | 山路3番地 粳玄米1石分 | |

(2)

| 種目 | 摘要 | 昭和16年 | | 昭和17年 | |
|-----|---------------------------------------|--|-------------------------|-----------------------|-------------------------|
| | | 年度始 數量 | 備考 價額 | 年度始 數量 | 備考 價額 |
| 講及保 | 頬母子講 掛込金 | 山田頬母子講 (契約高500圓、年2回掛、1回25圓) | 1 口 (12回迄) 300.00 | 7月21日 1月20日 | 掛込 350.00 |
| | 明和頬母子講 (契約高100圓、年2回掛1回5圓) | 1 口 (16回迄) 80.00 | 4月26日 12月24日 | 掛込 落札 | - |
| 險 | 生命保險 拂込金 | 明治生命保險(契約高1,000圓、30 ヶ年、年1回拂込30.70圓但シ5年 目ヨリ配當ニテ減額ス) | 1 口 (11回迄) 337.70 | 7月10月第12回 拂込 | 1 口 (12回迄) 368.40 |
| | 簡易保險(契約高210圓、10ヶ年拂 込20年満期、月掛1.50圓) | 1 口 42.00 | 拂込計 18.00圓 | 1 口 60.00 | |
| 金 | 次男徵兵保險(契約高200圓、12ヶ 年、年1回12.85圓拂) | 1 口 (2回迄) 25.70 | 11月16日第3回 拂込 | 1 口 (3回迄) 38.55 | |
| | 組合出資金 | 一口30圓拂込済 | 4 口 120.00 | | 4 口 120.00 |
| 出資 | 株券 | 日本電力株(50圓拂込) | 10 株 500.00 | | 10 株 500.00 |
| 株券類 | 公社債券 | 支那事變國債(10圓券) | 5 枚 35.00 | | 5 枚 35.00 |
| | | 貯蓄債券(10圓券) | | 7月5日5枚 買入 37.50 | 5 枚 37.50 |
| | 計 | (現金及準現金) | 2,751.90 | | 3,523.39 |

(9) 負 債

年度始、年度末に於て農家が有する一切の借入金及び未拂金をよく調べて記入する。

『種目』欄には貸主名を、『摘要』欄には負債の原因や條件（例へば娘嫁入のため、期限一ヶ年利率8分、北山の水田を擔保）等を記入する。

『備考』欄には各種目別に夫々一ヶ年間の収入計、支出計を記入する。然るときには次の式が成立するのである。

$$\text{年度末價額} = \text{年度始價額} + (\text{収入計} - \text{支出計})$$

註 ヨヽ=収入ハ借入金收入、買掛收入等ヲ、支出トハ借入金返済支出、買掛金返済支出等ノ意味スルノデアル。

(9) 負 債 (記入例)

| 種 目 | 摘 要 | 昭 和 1 6 年 | | 昭 和 1 7 年 | |
|-------|--------------------------------------|-----------|------------------------------|-----------|--------|
| | | 年 度 始 | | 年 度 始 | |
| | | 數量 | 價 額 | 數量 | 價 額 |
| 借 入 金 | 産業組合 倉庫建築資金(昭和8年12月借入400圓、5ヶ年年2回割賦拂) | 257.41 | 6月25日39.05償還 12月25日40.52ク | | 177.84 |
| | 頼母子譲掛戻金 大正頼母子譲(掛戻年1回10回) | 5回分 | 50.00 12月27日掛戻 | 4回分 | 40.00 |
| | 明和頼母子譲 | | 12月24日落札ニヨル (掛戻年2回1回5回) | 2回分 | 10.00 |
| 未 拂 金 | 農實行組合 肥料買掛金 | | | | 11.84 |
| | 丸玉商店 反物蒲團綿買掛金 | | | | 25.40 |
| | 加藤氏 未納小作料 | | 愛宕畑及宮前桑園分 | | 17.00 |
| | 計 (負 債) | 307.41 | | | 282.08 |

(10) 財產臺帳集計表

年度末に於て臺帳に於ける『土地』『建物』『大植物』等各種財産の夫々の計を次頁の『財產臺帳集計表』の該當欄に轉記する。

『銷却額及減少額』並びに『増殖額及增加額』の兩欄には固定財に就ては各種固定供用財の銷却額又は固定結果財の増殖額を夫々該當欄に轉記し、固定供用財銷却額計及び固定結果財増殖額計を算出し、流動財に就ては年度末減少額又は増加額を夫々當該欄に轉記し、流動供用財減少額計及び流動結果財増加額計を算出して、『計』欄に記入する。

『土地』は特別な場合を除く外は銷却額も増殖額もなく、また『建物』『大機具』にも増殖額がない事は前述した所である。『小植物』『小動物』及び『小機具』は特別な經營の模様換へでもない限り、全體としての價額に増加も減少もないものとして『價額』欄の數字をそのまま次年度の『價額』欄に記入するから、『銷却額及減少額』欄も『増殖額及增加額』欄も公に空欄に残される。

『未販賣現物』の場合には、年度末價額が増加した場合にはその増加額を『増殖額及增加額』欄の(+)の印を附した箇所に、減少した場合にはその減少額を(-)の印を附した箇所に轉記し、そして『銷却額及び減少額』欄は必ず空欄に残す。

『購入現物』の場合には、反対に、年度末に於て減少した場合にその減少額を『銷却額及減少額』欄の(+)の印を附した箇所に、増加した場合にはその増加額を(-)の印を附した箇所に轉記し、そしていつれにしても『増殖額及增加額』欄は必ず空欄に残す。

『現金及準現金』に就ては、年度末に於て増加又は減少あるも、『銷却額及減少額』『増殖額及增加額』兩欄は必ず空欄に残す。

而して之等の資産の『價額』欄合計は、その年度の年度始資産額を、次年度の『價額』欄合計は、その年度の年度末資産額を表はすものである。

『負債』は年度末に於て増加又は減少あるも、『現金及準現金』に於けると同様に、『銷却額及減少額』欄も『増殖額及增加額』欄も必ず空欄に残す。

而して資産合計よりその負債額を差引く時に財産額が算出されるのである。

(10) 財産臺帳集計表(記入例)

| 種 目 | 昭和 16 年 | | | 昭和 17 年 | | |
|-------------------------------------|------------------------|--------------------------------------|---|-----------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| | 年 度 始 價 円 | 銷 却 額 及 減 少 額 円 | 增 殖 額 及 增 加 額 円 | 年 度 始 價 円 | 銷 却 額 及 減 少 額 円 | 增 殖 額 及 增 加 額 円 |
| 固 定 資 產 | (1) 土 地 | 16,466.06 | | | 17,264.96 | |
| | (2) 建 物 | 3,108.50 | 60.90 | | 3,187.60 | |
| | (3) 大 植 物 | 1,949.02 | 9.41 | 60.78 | 1,925.39 | |
| | (4) 大 動 物 | 900.00 | | 218.44 | 490.00 | |
| | (5) 大 機 具 | 139.85 | 20.94 | | 143.51 | |
| 計 (固定資產) | | 22,563.43 | 91.25 | 279.22 | 23,011.46 | |
| <small>(固定供用財銷却額)(固定結果財増加額)</small> | | | | | | |
| 流 動 資 產 | (6) (イ) 小 植 物 | 154.50 | | | 154.50 | |
| | (ロ) 小 動 物 | 62.80 | | | 62.80 | |
| | (ハ) 小 機 具 | 198.53 | | | 198.53 | |
| | (7) 現 現 | | | | | |
| | (イ) 未販賣現物 (生産及收得現物) | 263.92 | 增加セル場合 (+) 64.08 減少セル場合 (-) | | 328.00 | 增加セル場合 (+) 減少セル場合 (-) |
| 物 | (ロ) 購入現物 (経営用現物) | 38.35 | 減少セル場合 (+) 增加セル場合 (-) 14.44 | | 52.79 | 減少セル場合 (+) 增加セル場合 (-) |
| | (ハ) 中間生産物 (無市價物) | 112.69 | | | 112.69 | |
| | 計 (流動資產) | 830.79 | (-) 14.44 (+) 64.08 | | 909.31 | (+) (-) (流動供用財減少額)(流動結果財増加額) |
| | 現金及準現金 | 2,751.90 | | | 3,523.39 | |
| | 合計 (資產) | 26,146.12 | | | 27,444.16 | |
| 負 債 | 307.41 | | | 282.08 | | |
| 差 引 (財 産) | 25,838.71 | | | 27,162.08 | | |

四、農家經濟決算表

農家經濟決算諸表

農家經濟の一ヶ年の結果を表はす各種の數字を算出する諸表である。

(1) 粗所得算出表 所得を獲るに要せる費用である所の所得的失費を未だ差引かない前の總儲け高を云ふ。此粗所得は日記帳總括計算表に於て算出せられた所得的總收入が、財產臺帳に於て算出せられた固定結果財増殖額と流動結果財(主として未販賣現物)年度末増加額とによりて補正せられ、次の公式によりて算出せられる。

$$\text{粗所得} = \text{所得的總收入} + \text{固定結果財増殖額} + \text{流動結果財增加額} \quad (\text{主として未販賣現物増加額})$$

(2) 所得的失費算出表 所得的失費は所得を擧げるに要した總費用を意味し、日記帳總括計算表に於て算出せられた所得的總支出が、財產臺帳に於て算出せられた固定供用財銷却額、流動供用財(主として購入現物)減少額及び賄支給額によりて補正せられ、次の公式によりて算出せられる。

$$\text{所得的失費} = \text{所得的總支出} + \text{固定供用財銷却額} + \text{流動供用財減少額} \quad (\text{主として購入現物減少額}) + \text{賄支給額}$$

最後の項の賄支給額とは、農業其他の所得經濟部面のために雇傭せる労働者に支給せる賄見積額を云ふのであつて、家計費中の所得經濟負擔部分を成すものである。故に所得的失費中に加算するのである。

(3) 農家所得算出表 其の年の農家の純儲け高を云ふのである。粗所得より所得的失費を差引く時に算出せられる。

$$\text{農家所得} = \text{粗所得} - \text{所得的失費}$$

(4) 家計費表 農家の家計を賄ふに要せる費用額を云ふ。家計用品は家具家財に至るまで完全消耗性財として取り扱はれるが故に家計總支出が何等補正を要せずして直ちに家計費を成す。

$$\text{家計費} = \text{家計總支出}$$

(5) 家族家計費算出表 農家の家計に於て雇傭労働者に賄を給したり、下宿人を置いたりした場合には、上述の家計費の中に家族の生活に要した消費的家計費の外に、之等のための費用即ち所得經濟負擔の家計費をも含む。故に純粹に家族の生活のために要した家計費(こゝでは家族家計費と云ふ)を算出するためには、之等の費用を見積つて家計費より差引かねばならないのである。

$$\text{家族家計費} = \text{家計費} - \text{賄支給額}$$

(6) 農家經濟餘剩算出表 農家所得より家族家計費(即ち家族生活費)を差引ける残額を云ふのであつて、どれだけその年度に於て其の農家に純粹の餘剰が生じたかを表はす。農家經濟の損

益計算の最終結果をなし、その年度に於ける農家經濟成績の最後の指標となる。

農家經濟餘剰=農家所得一家族家計費

(7) 農家財產純增加額算出表 年度末財產額より年度始財產額を差引いて算出せられる所の、當該年度内に於て増加せる農家財產の純増加額を意味するもので、農家經濟の財產計算の最終結果をなす。

農家財產純增加額=次年度始(即年度末)財產額-當該年度始財產額

(8) 資產價格變動=因ル損益算出表 農家經濟餘剰は全體としての農家經濟の經濟成績を表す。然るに農家經濟に於ては、この外に單に經濟界に於ける變動に原因して、本簿記に於て不消耗性又は不増殖性資產として取り扱つた土地及び有價證券の價格が下落又は騰貴し、財產臺帳に於ける記入價格よりも單に或は廉く或は高く賣却されたために、全く受動的に損益を生ずる場合がある。この損益をこゝに『資產價格變動=因ル損益』と云ふのである。例へば財產臺帳に500圓と記入せられてゐる株券(又は土地)が600圓に賣却せられた場合には、之に原因して資產價格變動による100圓の利益が生ずるが如きである。この損益額は農家財產純增加額には含まれて算出せられるが、農家經濟餘剰には含まれてゐないが故に、次の算式によりて兩者の差額として算出せられる。

資產價格變動=因ル損益額=農家財產純增加額-農家經濟餘剰

土地及有價證券の賣却が無かつた年度に於ては、この資產價格變動による損益額は必ず零でなければならない。換言すれば農家財產純增加額と農家經濟餘剰とは必ず一致しなければならない。若し一致しない場合には記帳又は計算に誤りの存することを示すものであるが故に計算及記帳を週つて調べねばならない。

右の記入例は土地及び有價證券の賣却が無かつた場合で、従つて農家財產純增加額と農家經濟餘剰とは一致し、資產價格變動による損益額は零となつて記帳及び計算に誤りがなかつたことを示してゐるのである。

農家經濟決算表(記入例)

(1) 粗所得算出表

| 摘要 | 要 | 昭和16年 |
|----------|----------------------|------------|
| 所得的總收入 | (日記帳 所得的總收入計算表ヨリ) | 円 3,206 61 |
| 固定結果財增加額 | (臺帳 財產臺帳集計表ヨリ) | 279 22 |
| 流動結果財增加額 | (臺帳 財產臺帳集計表ヨリ) | 64 08 |
| 計 | (粗所得) | 3,549 91 |

(2) 所得的失費算出表

| 摘要 | 要 | 昭和16年 |
|----------|--------------------|----------|
| 所得的總支出 | (日記帳 所得的總支出表ヨリ) | 円 853 13 |
| 固定供用財銷却額 | (臺帳 財產臺帳集計表ヨリ) | 91 25 |
| 流動供用財減少額 | (臺帳 財產臺帳集計表ヨリ) | 14 44 |
| 賄支給額計 | (日記帳 賄支給額概算表ヨリ) | 14 80 |
| 計 | (所得的失費) | 944 74 |

(3) 農家所得算出表

| 摘要 | 要 | 昭和16年 |
|-------------|---|------------|
| 粗所得(1表ヨリ) | | 円 3,549 91 |
| 所得的失費(2表ヨリ) | | 944 74 |
| 差引(農家所得) | | 2,605 17 |

(4) 家計費表

| 摘要 | 要 | 昭和16年 |
|-------|---------------------|------------|
| 家計總支出 | (家計總支出計算表ヨリ 日記帳) | 円 1,296 00 |

(5) 家族家計費算出表

| 摘要 | 昭和 16 年 |
|----------------------|--------------|
| 家計費 (4 表ヨリ) | 円 1,266 60 |
| 貯支給額計 (日記帳貯支給額概算表ヨリ) | 14 80 |
| 差引 (家族家計費) | 1,281 80 |

(6) 農家經濟餘剰算出表

| 摘要 | 昭和 16 年 |
|---------------|--------------|
| 農家所得 (3 表ヨリ) | 円 2,605 17 |
| 家族家計費 (5 表ヨリ) | 1,281 80 |
| 差引 (農家經濟餘剰) | 1,323 37 |

(7) 農家財產純增加額算出表

| 摘要 | 昭和 16 年 |
|------------------------|---------------|
| 次年度始財產額 (臺帳財產臺帳集計表ヨリ) | 円 27,162 08 |
| 當該年度始財產額 (臺帳財產臺帳集計表ヨリ) | 25,838 71 |
| 差引 (農家財產純增加額) | 1,323 37 |

(8) 資產價格變動=因ル損益算出表

| 摘要 | 昭和 16 年 |
|------------------|--------------|
| 農家財產純增加額 (7 表ヨリ) | 円 1,323 37 |
| 農家經濟餘剰 (6 表ヨリ) | 1,323 37 |
| 差引 (資產價格變動=因ル損益) | 0 00 |